

Ⅲ 中期プラン編 (手の届く未来である「10年程度先」を見据えた「近未来の成長戦略」)

第1 目指すべき姿（10年程度先）と施策の方向性

計画の基本理念に基づき将来ビジョンを実現するために、手の届く未来である「10年程度先」を見据えた5つの「目指すべき姿」の創造を目指します。

I みんなが輝くとくしまの創造

- 1 「いきいき子育て・とくしまづくり」
- 2 「未来を拓くひとを育む・とくしまづくり」
- 3 「いきいき自立・とくしまづくり」
- 4 「みんなの個性が彩る・とくしまづくり」
- 5 「一人ひとりが主役の・とくしまづくり」

II 安全安心とくしまの創造

- 1 「みんなで守る・とくしまづくり」
- 2 「強くしなやかな・とくしまづくり」
- 3 「くらし安心・とくしまづくり」
- 4 「安心医療・とくしまづくり」
- 5 「健康アップ・とくしまづくり」

III 環境先進とくしまの創造

- 1 「未来へつなぐ環境首都・とくしまづくり」
- 2 「自然エネルギー立県・とくしまづくり」
- 3 「潤いあるくらし環境・とくしまづくり」
- 4 「人と自然が調和する・とくしまづくり」
- 5 「豊かな森林を守る・とくしまづくり」

IV 経済好循環とくしまの創造

- 1 「経済加速・とくしまづくり」
- 2 「イノベーション立県・とくしまづくり」
- 3 「いきいきしごと・とくしまづくり」
- 4 「挑戦するブランド・とくしまづくり」
- 5 「新次元林業・とくしまづくり」

V 世界へはばたとくしまの創造

- 1 「にぎわいひろがる・とくしまづくり」
- 2 「世界とつながる・とくしまづくり」
- 3 「文化創造・とくしまづくり」
- 4 「スポーツはばたく・とくしまづくり」
- 5 「創造的なまちが輝く・とくしまづくり」

I みんなが輝くとくしまの創造

1 いきいき子育て・とくしまづくり

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

みんなで子育て協働支援社会

- ◆ 子育てについて、親子がともに学び・育つ環境が整うなど、社会全体で子育てを支援する気運が高まり、地域の子育て力が充実しています。
- ◆ 結婚や子育て、地域活動に積極的な若者が増え、街には子どもの声があふれ、いきいきとした地域社会が実現しています。
- ◆ 誰もが希望する質の高い幼児教育・保育サービスを受けることができるとともに、子どもたちは放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行っています。
- ◆ 子育て家庭に対する支援や、仕事と家庭が両立しやすい仕組みが整っています。
- ◆ 男女とも、結婚や出産に関する希望が叶い、安心して子どもを生み育てられる社会が実現しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 子育てを家庭だけの問題にとどめず、地域社会、行政、企業といった社会全体で支え合っていく「子育て協働支援社会」を目指します。
- ◎ 若者に対し、「結婚や子育て、地域活動が人生を豊かにする」という考え方の浸透を図るとともに、県内企業・団体間の「婚活支援ネットワーク」を構築し、地域の実情に応じた男女の出逢いの場づくりを進めます。
- ◎ すべての子どもを対象として、適切な保育や必要な幼児教育を提供するとともに、放課後の安全・安心な子どもの生活の場と、多様な体験・活動を行う機会の確保を図ります。
- ◎ 乳幼児等の病気の早期発見・早期治療や、子育て家庭の経済的負担の軽減を図ることにより、安心して、子どもを生み育てることのできる社会づくりを実現します。
- ◎ 育児不安解消に向け、すべての子ども・子育て家庭を対象として、子育てに関する相談・情報提供、育児疲れや子どもが病気にかかった時の一時預かりなど、地域の実情や子育て家庭のニーズに応じた、多様かつ総合的な子育て支援を行うことにより、子育ての負担を軽減します。
- ◎ 父親が子育てに積極的に参加できるよう、子育てを支援する職場環境の整備や、多様な就労形態を選択できる社会を目指します。

I みんなが輝くとくしまの創造

2 未来を拓くひとを育む・とくしまづくり①

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

特色と魅力のある教育環境

- ◆ 電子黒板・タブレット端末等のICT機器を活用した教育が浸透するとともに、高速ブロードバンドを活かした授業環境が整備され、すべての子どもたちが主体的に学習に取り組むことによって、基礎的・基本的な知識・技能はもとより、思考力・判断力・表現力等の「確かな学力」を育み、いきいきと学校生活を送っています。
- ◆ 専門的な教育や、高度な産業教育を受けることができる学習環境が整い、産業界において即戦力となる優秀な人材や、大学においてさらに専門性を探究する人材が育成されるとともに、少子高齢化の進行やグローバル化の進展等、社会状況の変化に対応した教育が、県内各地で総合的に展開されています。
- ◆ 各高等学校が「地域の教育・文化の創造拠点」となって、魅力ある学校づくりの推進や地域との連携強化が図られており、全国、そして世界で通用する将来のリーダーを育成しています。
- ◆ 児童生徒一人ひとりにとって、「心の居場所」となる、魅力のある楽しい学校づくりが行われています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 教育、学術及び文化の振興に関する施策を総合的に推進するため、「総合教育会議」を設置し、教育の目標や施策の根本的な方針となる「大綱」を策定し、推進を図ります。
- ◎ ICTを活用した授業実践など、教育のあらゆる場面でICTを活用できるよう、教員研修を充実させるとともに、テレビ会議システム等を活用した教育活動を推進します。
- ◎ すべての小・中学校において、少人数学級編制や少人数指導の充実を図ります。また、小学校英語専科教員の配置を進めることなどにより、教育の質を高め、児童生徒に対するきめ細やかな教育を推進します。
- ◎ 生徒や保護者が、一貫した学習環境のもとで学ぶ機会を選択できる中高一貫教育のさらなる充実とともに、小・中学校が連携した教育の展開など、児童生徒一人ひとりの個性や創造性を伸ばす教育活動のより一層の充実を図ります。
- ◎ 活力と魅力ある教育活動を展開していくために、高校再編を推進します。また、地域に根ざし、地域を活性化する教育を展開するため、時代に応じた学科再編や新学科の設置を行うとともに、技術革新の進展や産業構造の変化が進む中、産業教育の活性化と農工商連携による6次産業化に対応した教育を展開します。
- ◎ 各高等学校が全国、そして世界を目指す徳島ならではの取り組みや研究活動を展開することにより、特色ある教育活動のレベルアップを図ります。
- ◎ 児童生徒のいじめ・不登校や問題行動等の解決を図るため、教員をはじめ教育に携わる多様な関係者一人ひとりが、より一層連携し、やさしさや思いやりを育む豊かな教育を推進します。

I みんなが輝くとくしまの創造

2 未来を拓くひとを育む・とくしまづくり②

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

郷土愛に満ち自立したたくましい子供たち

- ◆ 学校・家庭・地域の連携により地域の教育力が高まっている中、子どもたちは、優れた芸術や伝統芸能などにふれたり体験することで、郷土への誇りを持ちながら豊かに学び、主体的に夢や希望を見つけることができる環境が整っています。
- ◆ 規範意識や公共の精神、思いやりなどの心とともに、「ふるさと徳島」への誇りと愛着を併せ持った、地域の活性化・発展に貢献する人材が育っています。
- ◆ 子どもたちが、積極的に運動に親しむ習慣や、郷土の食材を生かした望ましい食習慣を身に付け、「健やかな体」で生き活きと活動しています。
- ◆ 児童生徒が英語等によるコミュニケーション能力を身に付け、世界の動きに関心を持ち、国籍や年代を超えた多様な交流活動を行うなど、国際的視野に立って行動できるグローバル人材が育っています。
- ◆ 児童生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向けた、発達段階に応じたキャリア教育の推進により、すべての子どもたちが、自分自身の将来を見据え、社会人としての夢をいきいきと育んでます。



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 地域住民やNPO法人、地元で活躍する音楽家や芸術家など多様な人的資源を活用した地域の教育支援体制づくりを進めるとともに、地域の自然や伝統芸能を体験する機会を充実させることにより、子どもたちの夢を育み、郷土を愛する心を育てます。
- ◎ 学校の教育活動全体を通じた道徳教育を推進するとともに、学校・家庭・地域が連携し、人、社会、自然との関わりを生かして、児童生徒の豊かな心を育成します。
- ◎ 運動機会を増やす環境づくりや運動部活動の充実、地域の特色を活かした食育を展開するなど、望ましい生活習慣の定着を図ります。
- ◎ 英語教育のさらなる充実や、児童生徒のコミュニケーション能力を高めるとともに、体験的学習などを通して、自国と外国の文化の違いを認め合うなどの国際的な視野を養い、自ら積極的に行動できる児童生徒を育成します。
- ◎ 学校・家庭・地域が連携し、職業体験や就業体験等のキャリア教育を推進することにより、児童生徒が、将来、社会人・職業人として自立することができる力の育成を図ります。

I みんなが輝くとくしまの創造

2 未来を拓くひとを育む・とくしまづくり③

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

個性がひらく特別支援教育

- ◆ 障がいのある人とない人が共に学び、児童生徒一人ひとりの発達段階等に応じた教育的ニーズに応える連続性のある教育環境が整い、教員は、専門性の向上が進み、障がいの重度・重複化、多様化に対応した指導・支援が可能となっています。
- ◆ 障がいのある生徒の「自立と社会参加」を進めるため、関係機関が連携する総合的な支援体制が構築され、知的障がいや発達障がいのある生徒が、自立に向けて、専門教育や事業所等での就業体験により、自分自身の能力や可能性を高めながらいきいきと成長しています。



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 共生社会の形成に向けた「インクルーシブ教育システム^{*}」構築のため、通常の学級や特別支援学級、特別支援学校など「多様な学びの場」の充実を進め、各学校が連携し、一人ひとりの教育的ニーズに、よりの確に応える体制を整えます。
- ◎ 教育、医療、保健、福祉、労働等の関係機関が連携を強化し、特別支援学校のセンター的機能を充実させるとともに、特別支援教育に携わる教員の専門性の向上を図り、県下全域における、きめ細やかな特別支援教育を推進します。
- ◎ 障がいのある生徒の就労促進のため、企業の障がい者雇用への理解を推進するとともに、生徒の就労意欲や技能向上を図るなど、特別支援学校生徒の自立のための取組みを強化します。

I みんなが輝くとくしまの創造

2 未来を拓くひとを育む・とくしまづくり④

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

青少年はつらつ社会参画

- ◆ 学校や地域など様々な場所において、将来の夢を育むために必要な知識・経験を得ることができる活動や交流の場があり、青少年が自らのアイデアや感性を生かし、起業やソーシャルビジネス、国際交流、NPO、ボランティア活動など、多様な形態で主体的に活動しています。
- ◆ 若者の意見を政策に活かす仕組みが構築され、若者が地域社会に参画し、いきいきと活躍しています。
- ◆ 学校・家庭・地域が連携し、県民挙げて青少年の非行や被害を防止する気運が高まり、あらゆる大人が子どもたちを見守り、支援する体制やネットワークが整い、子どもたちは健やかに成長しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- 「青少年の健全な育成に関する基本計画」に基づき、青少年施策を総合的かつ計画的に推進します。
- 高校や大学・専門学校と連携し、起業やソーシャルビジネス、NPO、ボランティア活動などにつながる授業・講座を開設するとともに、青少年活動の拠点施設である青少年センターにおいて、様々な活動・体験に加え、あらゆる世代の人々と交流できる機会・場を提供することにより、青少年の自主的な活動を促進します。
- 携帯電話やICTを活用したコミュニケーション手段の利活用や、若者の審議会等への登用を促進することにより、若者の考えを政策に活かしていきます。
- 青少年の育成や非行・被害防止、また自立に困難を有する若者を支援するため、地域における多様な担い手を養成するとともに、子ども・若者の支援ネットワークづくりを進めます。
- 青少年に有害な環境を浄化するため、「青少年健全育成条例」を適正に運用するとともに、携帯電話やインターネット等による被害から青少年を守る取組みを推進し、青少年自らの適正利用に向けた啓発に努めます。

I みんなが輝くとくしまの創造

3 いきいき自立・とくしまづくり①

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

心豊かな長寿社会

- ◆ 「長寿先進県」として、すべての県民が安心して高齢期を迎えられ、生涯にわたり健康で生きがいを持ち続けながら、安心して暮らせる社会が実現しています。
- ◆ 高齢者がこれまで培ってきた、「知識」、「経験」、「能力」を活かし、地域社会を支える新たな担い手「地域を支える主役」として活躍しています。
- ◆ 「学び」・「実践」・「貢献」にチャレンジする「元気高齢者」が増え、「生涯現役」で活躍しています。
- ◆ 医療や介護が必要な状態となっても、住み慣れた地域で自分らしさや生活の質を保ちながら、多様なニーズに対応した質の高い医療・介護サービスが提供されています。



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 地域の課題や高齢者のニーズを的確に反映し策定した、新たな「とくしま高齢者いきいきプラン（第6期徳島県高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画）」に基づき、豊かな長寿社会づくりのための高齢者施策を推進します。
- ◎ 高齢者が創造的で心豊かな生活を送るため、高齢者自らが描いたライフプランやニーズに応じた生きがいづくりを支援するとともに、それぞれの地域で、様々な地域福祉に関わる活動を指導するリーダーを養成します。
- ◎ 価値観の多様化や社会状況の変化に対応し、高齢者の新たな知識・技術の習得のため、多様な学習機会を創出するとともに、多くの高齢者が、社会貢献活動や就労など、多様な形で「地域を支える主役」となり、「生涯現役」で活躍していただくための支援を行います。
- ◎ 医療や介護が必要な状態となっても住み慣れた地域で安心して生活を送るため、医療と介護が連携した切れ目のない在宅医療・介護サービスの整備を行います。
- ◎ 介護職員の更なる処遇改善や職場環境改善の促進に加え、イメージアップ戦略の展開により、介護人材の育成・確保を図るとともに、質の高い介護サービスを提供するため、介護サービス従事者の専門性や介護技術の向上を図ります。
- ◎ 教育委員会及び関係団体等と連携し、中高生が介護の大切さを理解し、「介護体験」ができる機会の提供を行います。

I みんなが輝くとくしまの創造

3 いきいき自立・とくしまづくり②

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

障がい者が自己実現できる社会

- ◆ すべての県民が、障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら、障がいのある人とない人が、お互いに支え合って交流・活動するなど、地域で共に安心して、生き活きと暮らせる「共生社会」が実現しています。
- ◆ 障がい者が、自らの能力や障がい特性に応じて働く場を確保できるとともに、自らが選んだ地域で安全・安心に暮らし、社会の中で自立して生活することができるよう、就労支援、地域移行・地域生活支援、コミュニケーション支援等の必要なサービス提供体制が整備されています。
- ◆ 障がい者を支援する多くのスタッフが相互に連携し、障がい特性に合った支援を進めることで、障がい者が自ら描いたライフプランが実現しています。
- ◆ 県民のすべてが「発達障がい」を正しく理解し、発達障がい者が仕事を持って、日々充実した暮らしを送っています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 障がいを理由とする差別の解消を進めるとともに、障がい者にとって一層の権利擁護の推進を図ります。
- ◎ 障がいのある人とない人との交流の一層の促進や、積極的な意識啓発などにより、障がい及び障がい者に対する県民理解を促進するとともに、特に「障がい者交流プラザ」の効果的な活用による、スポーツや芸術・文化活動等を通じた社会参加と交流を促進します。
- ◎ 障がい者が多様な特性に応じ、優れた能力を発揮することにより、自立と社会参加を進めるとともに、地域貢献などさらなる活躍の機会を創出します。
- ◎ 障がい者の職業的自立を支援するため、事業主をはじめ県民への意識啓発や、職業能力開発の場を確保します。
- ◎ 障がい者の地域の中での自立と社会参加を促進するため、関係団体と連携しながら、就労支援事業所等で生産された製品のブランド化や販路開拓を進め、さらなる工賃アップを図ります。
- ◎ 障がい者の地域生活の核となるグループホームの整備や、地域生活を支える相談支援、緊急時24時間サポート体制等の整備、さらには、障がい者の地域生活を支援する機能を集約した地域生活支援拠点の整備を促進します。
- ◎ 障がい者を総合的に支援できる人材を養成するため、現場のニーズを踏まえた実践的な研修を実施します。
- ◎ 地域の実状に応じた、きめ細かな支援を行うため、「発達障がい者総合支援ゾーン^{*}」及びサテライトにおける専門的な相談支援・就労支援の充実を図ります。

I みんなが輝くとくしまの創造

3 いきいき自立・とくしまづくり③

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

みんなが快適ユニバーサル社会

- ◆ 障がいの有無、年齢、性別等にかかわらず、多様な人々が利用しやすい社会を実現する取組みが進められています。
- ◆ 高齢者、障がい者をはじめ、国籍等を問わず、誰もが自由に社会参加できる「ユニバーサルなまちづくり」が進み、安全・安心で快適な施設整備が促進されています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 「とくしまユニバーサルデザイン県民会議」を通じて、県民、事業者、行政の各主体が緊密に連携・協働し、それぞれの役割に応じて、積極的かつ主体的に、ユニバーサルデザインの推進に向けた取組みを実践します。
- ◎ 県民及び事業者の意識高揚と知識普及を図るため、ユニバーサルデザインの先駆的・モデル的取組みについて表彰するなど、啓発活動を推進し、すべての人が暮らしやすい社会の実現を目指します。
- ◎ 全ての人々が安全に安心して暮らせるよう、歩道等の整備や、事故危険箇所における交通安全対策を推進するとともに、誰もが利用しやすい公共交通機関を実現するため、利便性、快適性の向上を図ります。

I みんなが輝くとくしまの創造

3 いきいき自立・とくしまづくり④

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

心通いあう温かな地域

- ◆ 地域の住民どうしが、お互いを大切な存在として、助け合いながら「地域づくり」を行うことで、「地域の絆」が一層深まり、ひとり暮らし高齢者や認知症高齢者、障がい者等が、住み慣れた地域でより安心して生活をしています。
- ◆ 県民一人ひとりの動物愛護意識の高揚・浸透により、人と動物がともに暮らせる地域社会が実現しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 誰もが共に支え合い、安心して暮らせる地域社会を実現するため、「徳島県地域福祉支援計画」に基づき、市町村、地域住民、事業者、福祉活動団体が連携しながら地域福祉の推進を図ります。
- ◎ 地域社会から孤立しがちなひとり暮らし高齢者等が、住み慣れた地域で自立した生活を送れるよう、日常的な見守り体制の充実強化を図るとともに、地域住民が認知症について理解し、地域全体で認知症高齢者を支えていくための支援の充実を図ります。
- ◎ 高齢期を迎えても生活の質が維持できるよう、介護予防の普及啓発や介護予防リーダーの養成など、介護予防に重点を置いた健康づくりを推進します。
- ◎ 県民が障がいへの理解と認識を深め、みんなが助け合って生活できるよう、手話や要約筆記等の専門的知識・技能を有する各種人材の育成や、スポーツ活動など生きがいづくりの支援を進めることにより、地域における障がい者支援を推進します。
- ◎ 認知症高齢者や知的障がい者等、判断能力が十分でない方の日常生活の自立支援や権利擁護を図るとともに、生活保護受給者をはじめ生活困窮者の自立を促進するため、ハローワーク等関係機関と連携して就労支援を推進します。
- ◎ 関係団体やボランティアと協力し、犬・猫の譲渡の推進、動物ふれあい活動等を通じて、県民が身近な動物への関心・理解を深め、人と動物が強い絆でともに暮らす地域づくりを推進します。

I みんなが輝くとくしまの創造

4 みんなの個性が彩る・とくしまづくり①

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

すべての人の人権が尊重される社会

- ◆ 県民一人ひとりが、生命の尊さや人間の尊厳を認識し、性別や国籍の違い、障がいの有無や、どこで生まれたかなどにかかわらず、自分がかげがえのない存在であること、また、他人もかけがえのない存在であることを実感し、それぞれが個性や能力を十分発揮できる「人権が尊重される社会」が実現しています。
- ◆ 学校・家庭・地域が連携し、日常生活の様々な機会を通じ、多様な主体が自主的に参画する交流学習・体験活動や、次代を担う若者が中心となった人権教育啓発が活発に行われ、一人ひとりを大切にすることが県民に定着しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 国、市町村、NPO等と連携を図りながら、県民の人権意識の高揚と様々な人権問題の解決に向けて、「徳島県人権教育・啓発に関する基本計画」を着実に推進します。
- ◎ 県の人権教育啓発推進の中心的拠点である「人権教育啓発推進センター（あいぽーと徳島）」において、県民一人ひとりの生活と深くかかわり、自分の課題として認識を深めるために、人権尊重の視点から身近な問題を考える人権教育啓発事業や相談等を行い、人権尊重の社会づくりを進めます。
- ◎ 人権フェスティバルなどを開催することにより、誰もが気軽に参加でき、明るく楽しい雰囲気の中で、多くの県民に様々な人権問題を自分の問題として考えてもらうための機会を設けるとともに、人権に関わるNPO等の民間団体の育成を図り、官民一体となった人権啓発を実施できるよう、県内の民間団体など多様な主体が企画、実施する自主的な取組みを支援します。
- ◎ 「徳島県人権教育推進方針」に基づき、幼児児童生徒の発達段階を踏まえ、計画的・系統的な人権教育の推進・充実を図るとともに、生涯学習の視点に立ち、学校・家庭・地域が連携して、人権に関する多様な学習機会の提供に取り組めます。

I みんなが輝くとくしまの創造

4 みんなの個性が彩る・とくしまづくり②

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

男女共同参画とDVや児童虐待のない社会

- ◆ 「男女共同参画社会の形成は、男女を問わずすべての人にとって、より暮らしやすくなるものである」という理解が浸透しています。また、性別により差別されることがなく、個性や能力を発揮できる社会になっています。
- ◆ 多様な生き方を選択できる環境が整い、男女とも仕事と家庭生活、地域活動が両立可能となることで地域が活性化するなど、ますます女性の活躍が促進され、地域における重要な方針や計画等を決定する場においても、男女が共同して積極的に参画し活躍しています。
- ◆ 配偶者等からの暴力や児童虐待のない社会が実現し、住み慣れた地域で安心して生活することができています。



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 地域において、男女共同参画の取組みが浸透するよう、男女共同参画の推進に関する新たな基本計画を策定し、その着実な推進を図ります。
- ◎ 「ときわプラザ（男女共同参画交流センター）」において、相談機能・研修機能を拡充・強化するとともに、男女共同参画を地域で推進する「地域活動リーダー」を育成します。また、「地域活動リーダー」の活躍により、すべての市町村において、男女共同参画の視点を導入した地域活動の取組みを進めます。
- ◎ 女性が多様な分野に参画できるよう、フォーラムの開催等により、「ワーク・ライフ・バランスの推進」や「子育て支援」、「男性の家事育児参加の促進」など、社会全体の意識改革を推進します。
- ◎ 女性に対するあらゆる暴力の根絶や配偶者等からの暴力の防止を図るため、若年層を対象とした啓発事業などを推進するとともに、被害者の救済・自立を図るためにも、関係機関等との連携強化や民間団体の活動支援といった地域と協働した取組活動を充実します。
- ◎ 関係機関等が連携して児童の支援・保護を行う「市町村要保護児童対策地域協議会」の活動を支援し、児童虐待の未然防止や早期発見・早期対応に努めます。

I みんなが輝くとくしまの創造

5 一人ひとりが主役の・とくしまづくり①

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

ニーズを捉える充実した生涯学習環境

- ◆ 県民ニーズを捉えた講座等の充実に加え、人生の多様な時期に多彩な方法で学習可能な環境が整備されており、学んだ成果が講師やボランティア活動等を通じて積極的に地域社会に還元され、さらなる生きがいづくりや地域活性化につながっています。
- ◆ 個人の生きがいやニーズに基づいた学びに加え、地域社会のあり方や防災といった社会的課題の解決のための学びをはじめとする多様な学びの場が増え、活気ある地域づくりにつながる生涯学習が行われています。
- ◆ 食が大切に考えられ、食に関する正しい知識・技術が身に付き、県産野菜をはじめ地元の農林水産物を活用した健全な食生活が定着することにより、健康増進が図られているとともに、和食や郷土食、行事食などの食文化や豊かな自然環境に対する理解と関心が深まっています。



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 「徳島県立総合大学校（まなびーあ徳島）」において、高等教育機関や企業、NPO、市町村等の関係機関との連携を一層推進し、生涯学習情報のワンストップでの提供や、県民ニーズや社会潮流を捉えた講座の充実により、県民の生涯学習活動を総合的に支援します。
- ◎ 多岐にわたる各種講座やイベントの情報をスピーディに発信することにより、誰もが、いつでも、どこでも学ぶことができる機会を提供します。
- ◎ 豊かな自然環境の中で育まれた多様な食材に恵まれ、生産者と消費者の距離が近いという本県の特性を活かし、関係者が一体となって、野菜摂取の啓発をはじめとする県民運動としての食育を推進します。

I みんなが輝くとくしまの創造

5 一人ひとりが主役の・とくしまづくり②

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

みんなで担う共感と協働による社会

- ◆ 様々な分野において、行政とNPO・地域住民等との連携・協働による「共助社会づくり」が一層推進され、地域住民等が身近な社会資本の維持管理等を担っており、県民・企業等は、社会貢献への「志」を実現するため、活発な寄附により、本県の多様な社会貢献活動を支えるとともに、積極的に活動参加をしています。
- ◆ NPO等の社会貢献活動団体では、資金調達をはじめとするマネジメントのノウハウを備えた人材を育成し、自立した団体として継続的に事業を展開して地域社会の課題解決に取り組んでいます。また、地域の人を雇用し、収益を上げ、その収益を社会貢献活動に充てる事業型NPOの取組みにより、新たな市場の創出・拡大が図られています。
- ◆ 農山漁村では、企業、NPO等が美しいふるさとを守るため、農作業や保全作業等を地域住民との「協働」で行っています。また、相互の交流が進み、強い絆で結ばれています。



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 「とくしま県民活動プラザ」による支援の充実・強化により、NPO法人等の自立や、県民の社会貢献活動への参加を促進するとともに、「ゆめバンクとくしま^{*}」のPRなどを通して、本県の寄附文化の醸成や事業型NPOへの展開支援を行います。
- ◎ これまでの道路、河川などにおけるアドプトプログラム^{*}や、地域でのボランティア活動の取組みをさらに発展させ、地域住民等が主体的に社会資本の維持管理等に参加できる仕組みを整えます。
- ◎ 農山漁村と都市部の組織や住民を結びつけ、協働活動により農山漁村の活性化を図ります。

II 安全安心とくしまの創造

1 みんなで守る・とくしまづくり①

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

充実・強化する危機管理体制と防災教育

- ◆ 県、市町村をはじめ、自衛隊・警察・消防等の関係機関、医療機関、福祉関係者などの連携により、災害や危機事象に的確に対応できる危機管理体制が整っています。
- ◆ 消防の広域化及び消防団員の確保により、県民が安心して暮らせる消防力が整備されており、学校と地域の連携のもと、児童・生徒の発達段階に応じた防災教育が行われ、将来、地域や事業所における防災リーダーとなる人材が育成されています。
- ◆ 住民の防災意識が高まり、自主防災組織を核とした住民中心の防災活動が活発に行われ、災害発生時の避難や救出救助活動などが円滑に行えるようになっていきます。
- ◆ 地域、学校、家庭、関係機関の連携が深まり、防犯・交通安全はもとより、防災対策の取組みが総合的、効果的に行われ、それぞれの地域で子どもの笑顔があふれています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 国民保護共同訓練等を実施し、県、市町村をはじめ、消防・警察・自衛隊等の関係機関、ライフライン事業者との連携強化を図るなど、危機事象への対応能力の向上を促進します。
- ◎ 消防組織の統合や消防指令センターの共同化、消防常備化などを促進し、市町村の消防体制の充実強化を図るとともに、女性や若者、少年少女も参加して、消防団活動を地域ぐるみで支える「未来の消防団」づくりを支援し、団員の確保を図ります。
- ◎ 各学校では、地域と連携した防災教育を推進し、地域全体で防災教育に取り組む体制づくりや、防災を担う人材育成に取り組めます。
- ◎ 南部防災館と連携し、研修や講座を実施することにより、自主防災組織の能力向上や次世代の防災活動の担い手育成を図ります。
- ◎ 地域住民の参画により学校安全を総合的に支援する体制を整備し、子どもの安全・安心の確保を図ります。

II 安全安心とくしまの創造

1 みんなで守る・とくしまづくり②

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

向上する地域防災力

- ◆ 自主防災組織や防災リーダー等が主体的に地域の防災活動に取り組み、県全体の地域防災力が強化されています。
- ◆ 地域の良質な社会資本の整備や維持・更新をはじめ、災害時には救援活動や応急復旧活動を担う建設産業が、中長期的な担い手の育成及び確保などにより健全に発展し、地域の防災力の向上が図られています。
- ◆ 県域を越えた災害応援などの取組みにより、南海トラフ巨大地震や複数の災害が同時または時間をかけて発生することによって起こる複合災害など、広域的な災害に対応する体制が整備されています。
- ◆ 災害関連死をはじめとする「防ぎ得た死」をなくすため、医療や防災関係者だけでなく、住民・企業など地域ぐるみによる平時と災害時のつなぎ目のないシームレスな医療提供体制が構築され、要配慮者をはじめとする被災者の安全・安心に寄与しています。
- ◆ 災害時の医療救護活動を専門的に行う「災害派遣医療チーム（DMAT）」や「災害時コーディネーター」に加え、こころのケア活動を専門的に行う「災害派遣精神医療チーム（DPAT）」の養成が行われるなど、災害時における医療提供体制やこころのケア体制の確保が図られています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 国の「大規模地震防災・減災対策大綱」を踏まえ、県民総ぐるみで地震への防災意識の向上や防災訓練の実施、FCP（家族継続計画）^{*}の普及をはじめとする自助・共助の取組強化といった地震防災対策を推進するとともに、大規模災害に備え、広域的な応援活動が円滑に行われるよう、新たな防災拠点の整備に取り組むなど、ソフト・ハード両面から必要な防災・減災対策を推進します。
- ◎ 自主防災組織の活動活性化や、地域や企業における防災リーダーの養成・活動支援とともに、災害ボランティアの活動環境の整備を促進します。
- ◎ 地域防災を支える建設産業が、健全に発展し地域防災力が向上するよう、建設産業の魅力を発信するとともに、技術者育成や経営基盤強化を支援します。
- ◎ 広域的な大規模災害に備え、関西広域連合及び中国四国ブロックとの一層の連携強化に努め、災害対応能力の向上を図るとともに、同時被災の可能性が低い鳥取県との強固な協力体制を構築します。
- ◎ 「戦略的災害医療プロジェクト」において、「基本戦略」の策定など、得られた成果を戦略的な災害医療パッケージとして取りまとめた上で、県下に普及させ、全国に発信します。
- ◎ 「DMAT」、「災害時コーディネーター」、「DPAT」の養成に積極的に取り組むことにより、災害時における医療提供体制やこころのケア体制の整備・充実を図ります。

II 安全安心とくしまの創造

2 強くしなやかな・とくしまづくり

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

県土強靱化の進展

- ◆ 木造住宅や民間建築物、公共施設や病院などの耐震化の進展により、安全・安心な住生活環境の確保や、災害時の防災拠点としての整備がなされ、「地震に強いとくしま」が実現しています。
また、公共施設等については、適切な維持管理のもと、必要な機能が維持され、県民の安全・安心が確保されています。
- ◆ 洪水、高潮や地震・津波、土砂災害などによる被害を未然に防ぐための河川・海岸・砂防・治山や道路などの整備が着実に推進されるとともに、県民の防災意識が高揚し、安全・安心が図られています。
- ◆ 災害時における危険箇所の周知を行うとともに、雨量や河川水位、避難情報などの防災情報がリアルタイムに県民に届くことで、迅速な初動対応が可能となり、人命に関わる被害の軽減が図られています。
- ◆ 災害に強い情報システム・ネットワークの整備により災害情報が県民や事業者に円滑に提供されるなど、情報化の進展に応じた防災情報提供体制の整備に加え、速やかな農業・漁業の再開が可能となる体制の整備や、必要最低限の電気・工業用水の供給確保、早期復旧が図られているなど、本県の業務継続性の確保はもとより、災害からの迅速な復旧・復興が可能となっています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 「徳島県国土強靱化地域計画」に基づき、大規模自然災害が発生しても、「致命的な被害を負わない強さ」と「速やかに回復するしなやかさ」を持った「県土の強靱化」を推進します。
- ◎ 木造住宅の「耐震診断」・「耐震改修」支援に加え、県の施設・病院等の耐震化や、救急救命・防災活動等を支援するインフラ整備、既存施設の長寿命化を計画的に進めるとともに、河川堤防・海岸保全施設等の高上げ・耐震化等や、河川改修などの重点的な実施、砂防・治山・地すべり防止施設等の整備、鉄道高架事業を推進します。
また、救急救命や防災活動等を円滑に行えるよう、四国横断自動車道（徳島JCT～阿南間）や阿南安芸自動車道の整備促進、「暫定2車線区間の解消」や「津波避難施設の設置」といった高速道路ネットワークを賢く使う取組みに加え、四国新幹線実現に向けた取組みなど高速交通ネットワークの整備推進を図るとともに、主要幹線道路の異常気象時における事前通行規制区間解消に向けた道路整備や、集落孤立防止のための生命線道路・代替路の整備を推進します。
- ◎ 「土砂災害防止法」に基づく基礎調査結果を迅速に公表し、危険箇所の周知や「土砂災害警戒区域」の指定推進により、防災意識の啓発や警戒避難体制の構築を図るとともに、山地防災ヘルパーによる山地災害危険地区の調査・点検パトロールの推進や山地災害の情報収集の強化に向けた体制強化を推進します。
- ◎ インターネットや携帯メールなど多様なツールによる県民への情報発信機能の充実に加え、情報通信ネットワークの整備や安定運用の推進、行政等関係機関における災害対応に必要な情報を共有する通信手段の確保・充実とともに、県民等に提供するシステムの整備・運用を図ります。
また、主要なシステムを集約した基盤を、県庁舎と外部のデータセンターに二重化することによりリスクを分散し、災害時における業務の継続性を確保するとともに、有事における海上情報通信体制の充実強化を図るため、漁業無線のネットワーク化を推進します。
さらに、迅速な復旧・復興を図るため、実地訓練等を通じて、農業版BCPの実効性の向上を図り、漁業版BCPの策定を進めるとともに、電気・工業用水の地震対策や老朽化対策、地籍調査を計画的に推進します。

II 安全安心とくしまの創造

3 くらし安心・とくしまづくり①

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

食の安全安心確保と消費者被害の防止

- ◆ 適切な表示や加工履歴の管理を行う食品加工業者等に対する認証制度の浸透に加え、食品の製造から販売までの各段階における監視指導等により、「生産活動の見える化」が進み、食品の信頼性・安全性が確保されることで、「安心」した食生活を送ることができる社会が実現しています。
- ◆ 農業者は、GAP（農業生産工程管理）の導入・実践により安全な農産物を生産するとともに、生産に係る情報が、流通・販売業者によるトレーサビリティ^{*}の情報と併せて開示されることで、消費者は安全な農産物を安心して購入できるようになっています。
- ◆ 幼少期から高齢期まで、自立した消費者となるための学習機会が充実し、誰もが気軽に消費生活相談ができる環境や、地域におけるくらしの見守り体制も整い、消費者被害のない安全・安心な社会が実現しています。



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 食品表示の監視指導の強化やリスクコミュニケーション^{*}の推進とともに、全国に先駆けた食品表示関係条例の施行により、食品の「生産活動の見える化」を図り、県民の食に対する信頼確保を図ります。
- ◎ 「鳴門わかめ」をはじめとする県産農畜水産物の認証制度の拡大・浸透を推進するとともに、「徳島県食品衛生監視指導計画」に基づき、食品に係る関係部局が連携した監視指導等を実施し、県民の健康保護と食の安全・安心の推進を図ります。
- ◎ 「日本農林規格（JAS）」等取得の推進や獣医療の体制を整備することで、安全・安心な畜産物の生産拡大を図るとともに、新規就農者や若い農業者等を中心に、「とくしま安²GAP農産物認証制度^{*}」の推進、エコファーマー^{*}の育成及び有機農業等の支援に取り組み、とくしまブランドの認知度向上と生産・販路の拡大を図ります。
- ◎ 消費者教育用学習教材の作成・普及、出前講座の講師派遣のほか、くらしに役立つ情報を様々なチャンネルを通じて発信していくとともに、市町村の消費生活センター相談員や窓口担当者の資質向上への支援による相談体制の強化に加え、「くらしのサポーター」の拡充や若年層の社会参加の促進により、地域の見守り体制の充実に努めます。

II 安全安心とくしまの創造

3 くらし安心・とくしまづくり②

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

体感治安向上と交通マナー先進県

- ◆ 街頭や地域において、警察官やパトカーによるパトロールの頻度が増えるとともに、地域の治安維持の活動拠点である警察施設（警察署、交番及び駐在所等）が整備充実され、県民の体感治安が向上しています。
- ◆ 県民一人ひとりの防犯意識の高まりとともに、交通安全意識、交通マナーの向上によって、犯罪や交通事故の少ない、幼児から高齢者まで安全で安心して暮らすことができる地域社会が実現しています。



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 「安全安心とくしま」実現のため、「県民から見える警察活動」に取り組むとともに、治安情勢、社会環境の変化や災害リスクに対応した警察署等の施設整備を進めます。
- ◎ 街頭犯罪[※]等の発生状況を分析し、効果的な抑止対策を実施するとともに、県民の犯罪に対する抵抗力向上を図るべく積極的な情報発信を行うなど、安全で安心なまちづくりを推進します。
- ◎ 「交通マナー先進県」を目指して、県民一体となった交通安全思想の普及・浸透を図り、交通マナーの向上と交通ルール遵守に向けた運動を展開するとともに、高齢者を交通事故から守るため、関係機関と連携しながら、総合的な高齢者交通事故防止対策を推進します。
- ◎ 全ての人々が安全に安心して暮らせるよう、歩道等の整備や、事故危険箇所における交通安全対策を推進します。（一部再掲）

II 安全安心とくしまの創造

4 安心医療・とくしまづくり

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

いつでもどこでも安心医療

- ◆ 徳島大学医学部の「地域枠^{*}」で養成された多くの医師が第一線で活躍しており、医師の地域偏在や診療科偏在といった課題も解消されつつあります。
- ◆ 24時間365日、救急患者を受け入れできる救急医療体制が構築され、夜間における子どもの急病などにも迅速に対応できる環境が整備されています。
- ◆ 広域的なドクターヘリの運航により、県下全域をカバーする搬送体制が整備され、救命救急センター等で高度な医療を受けることができるようになっていきます。
- ◆ いずれの地域においても、高度ながん医療が提供されるとともに、がん患者の在宅における療養体制整備が進み、生活の質の向上が図られています。
- ◆ 母と子どもの命を支える産科や小児科の医療体制が連携し、安心して出産や育児を行うことができる地域が増えていきます。



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 医師の地域偏在や診療科偏在を解消するため、地域医療に貢献する医師の養成に努めるとともに、医師派遣・医師のキャリア形成支援の拠点として、「地域医療支援センター」の機能を強化します。
- ◎ 安心して子どもを産み育てることができるよう、24時間365日対応可能な小児救急医療などの体制の充実を図ります。
- ◎ 関西広域連合による広域的なドクターヘリの運航など、府県域を越えた広域救急医療連携のさらなる充実に取り組み、本県をはじめ関西全体に「安全・安心の輪」を広げていきます。
- ◎ がん診療連携拠点病院等の拡充・機能強化と地域医療機関との連携を図り、より高度で専門的ながん医療を提供するとともに、「徳島がん対策センター」が中心となり、がん患者やその家族の支援を推進します。
- ◎ 「総合周産期母子医療センター」において、妊産婦及び新生児等に対し、高度で専門的な医療を提供するとともに、「地域周産期母子医療センター」や産科医療機関との連携を強化することにより、周産期医療の充実を図ります。

II 安全安心とくしまの創造

5 健康アップ・とくしまづくり

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

生涯現役！伸びゆく健康寿命

- ◆ 自らの健康づくりに積極的に関心を持って、生活習慣の改善と健診の受診を率先して行ったり、ライフステージに応じた運動習慣やバランスのとれた食生活を心がける県民が増え、店舗や事業所でも、従業員の健康に配慮した環境づくりや健診受診率アップに積極的に取り組むなど、糖尿病をはじめとする生活習慣病やがんによる死亡率が改善しています。
- ◆ 地域のつながりや絆が大切にされ、住民の社会参加により、支え合い意識が高い元気な地域や生きがいを持って生活する県民が増えています。
- ◆ がん患者・家族に対する理解の社会的な広がりや相談・就職など生活への支援体制とともに、すべての難病患者が24時間安心して地域で生活できる医療・相談体制が整備されています。
- ◆ 歯・口腔の健康づくりに関する理解が進み、日常生活において、歯・口腔の健康づくりに取り組む県民が増加しています。
- ◆ 新たな感染症の流行に備えた、情報の収集・提供体制や検査体制の確立などが図られ、感染症危機管理体制が整備されています。
- ◆ 身の回りに気軽に相談でき、話を聞いてもらえる人が増えることで、「地域における絆」が強化され、孤立化を防ぎ、自殺者数が減少しています。



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 自らの健康に積極的に関心を持ち、生活習慣を変えようとする機運を醸成し、県民総ぐるみで、バランスのとれた食生活の実現や運動習慣の定着化など、「食生活」、「運動」の両面から健康づくりを推進し、糖尿病をはじめとした生活習慣病の改善を図ります。
- ◎ 糖尿病患者が、かかりつけ医と糖尿病専門医との間で、効果的・効率的な治療・指導を受けられる体制を整備・充実します。
- ◎ 野菜摂取量アップなど食環境づくりに取り組んだり、たばこ対策、従業員の健診受診率の向上など、健康づくりに配慮した店舗や事業所を増やします。
- ◎ 「自分の健康は自分で守る」という県民の意識を醸成するとともに、地域での「信頼」、「交流」、「社会参加」といったソーシャルキャピタル[※]の形成を促進し、健康なまちづくりを推進します。
- ◎ 効果的で質の高いがん検診の普及や受診率向上に加え、医療機関やピアサポーター[※]による相談窓口の充実、がんに対する企業の理解促進、がん患者の就職・復職支援等を推進します。
- ◎ 難病患者に対する良質かつ適切な医療の確保と、難病患者の療養の質の向上を図ることを目的に、地域の医療機関の連携による難病医療提供体制及び相談体制の整備を図ります。
- ◎ 感染症のまん延を防止するため、感染症の発生動向を早期かつ的確に把握、分析し、地域に情報発信を行うとともに、適切な医療を行うための体制整備を進めます。
- ◎ 行政や民間団体における相談機能を強化し、連携体制を構築するとともに、「自殺予防サポーター」など心のケアサポーターを養成し、地域における自殺対策の推進を図ります。

Ⅲ 環境先進とくしまの創造

1 未来へつなぐ環境首都・とくしまづくり①

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

持続可能な未来に向かう社会

- ◆ 「地球温暖化対策」の必要性が県民に浸透し、電気自動車の普及や自然エネルギーの活用をはじめとする低炭素な生活へのシフトが進み、自主的な温室効果ガスの排出抑制が広がっています。
- ◆ スマートメーター^{*}やHEMS^{*}の導入など、家庭・オフィス部門の「電力的見える化」により、省エネ意識が広まり、「我慢する省エネ」から、LEDなど高品質・長寿命な製品の利用といった家計・事業活動にも優しい「賢い省エネ」の取組みが広く浸透し、快適さと環境が両立したライフスタイルが広がっています。
- ◆ 従来の「省エネ」に、「創エネ」や「蓄エネ」の視点を加えた「攻めの省エネ」による「徳島夏・冬のエコスタイル」を県民総ぐるみで展開し、クールシェア（ビズ）によるエネルギーのピークカットなど、県民生活のエコ化が進んでいます。
- ◆ 都市機能の集約等により、温室効果ガスを排出しない移動手段の定着や、自然エネルギーの活用などによる「エネルギーの地産地消の実現」など、地域の特性を活かした、環境負荷の小さい低炭素型の都市・地域づくりの取組みが進んでいます。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 温暖化対策として、温室効果ガスの削減目標や、重点的に取り組む「重点プログラム」等を定めた「徳島県地球温暖化対策推進計画」に基づき、県民、事業者、行政が、互いに連携、協働し、主体的に各種施策に取り組むことにより、各分野において温室効果ガス排出量を削減します。
- ◎ スマートコミュニティ^{*}の推進や自然エネルギーの導入促進などの新たな環境課題にも対応するため、「とくしま環境県民会議」の組織を充実強化するとともに、関西広域連合のスケールメリットを活かして電気自動車の広域的な普及を図るなど、産学民官の知見の集約と協働により、地球温暖化対策の先導的な社会実験や新たな制度づくりに積極的に取り組みます。
- ◎ 県が率先して節電・省エネに取り組むとともに、「徳島夏・冬のエコスタイル」等の展開を通じ、県民・事業者に「賢い省エネ」・省資源の取組みの定着を広く呼びかけ、さらに一歩進んだ「ライフスタイル（ビジネススタイル）の転換」を推進していきます。
- ◎ 都市機能の集約による「歩いて暮らせるまち」の実現や、公共交通機関や自転車等を重視した交通システムの構築、豊かな自然や未利用エネルギーの活用など、環境負荷の小さい低炭素型の都市・地域づくりに取り組みます。

Ⅲ 環境先進とくしまの創造

1 未来へつなぐ環境首都・とくしまづくり②

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

■ 拡がる環境活動の「わ」

- ◆ 「環境首都とくしま・未来創造憲章」に定める行動指針が広く普及し、環境にやさしいライフスタイルが確立されており、誰もが高い環境意識を持ちながら、それぞれの役割・責任に応じた環境活動に主体的に取り組むことで、幸福感、充実感を味わっています。
- ◆ 子どもから高齢者まで、楽しみながら環境に関する知識を吸収できる講座・イベントが数多く用意されており、情報収集しやすいように、ジャンル別・時期別に分類され、誰でも気軽に参加できるようになっています。
- ◆ 学校を拠点に、環境活動が地域との連携で積極的に行われることにより、環境問題・環境保全について関心を持ち、様々な課題解決に向け実践力を身に付けた子どもたちが育つとともに、家庭や地域にも環境意識が浸透しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 誰もが、自主的、主体的に環境活動に取り組むことができるよう、「エコみらいとくしま（環境首都とくしま創造センター）」を拠点として、環境活動の「わ」が拡がる人づくり、地域づくりを進め、指針となる「環境首都とくしま・未来創造憲章」の普及を図ります。
- ◎ 県民誰もが環境に親しみを持ち、知識を深められるよう、学校や自治会などが行う学習会や講演会に環境アドバイザーを派遣したり、学識経験者や県職員による出前講座を実施します。
- ◎ 講座や学習会の実施により、地域で中心となって環境活動に取り組む人材や地域や次世代の環境意識を高める指導者の育成を推進するとともに環境活動団体同士の交流を進めることで、活動の促進を図ります。
- ◎ 学校施設において、内装の木質化、太陽光発電設備や省エネ器具の導入などを進め、すべての学校を地域の環境教育の拠点とすることにより、地域全体で取り組む環境保全活動の充実を図ります。
- ◎ 学校と地域の連携で広げるエコプロジェクトとして、「新学校版環境 I S O[※]」の取組みを充実・発展させ、学校と地域社会がより一層連携した環境学習の取組みを進めます。

Ⅲ 環境先進とくしまの創造

2 自然エネルギー立県・とくしまづくり

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

地域のポテンシャルを活用し、安定的にエネルギーが供給される社会

- ◆ エネルギーの安定供給を図るとともに、地球温暖化対策を推進するため、資源の枯渇のおそれ少なく、また、温室効果ガスをほとんど出さない「自然エネルギー」が、県内の様々な分野で最大限活用されています。
- ◆ 県内に豊富に存在する「海洋自然エネルギー」のポテンシャルを有効活用して、「洋上風力」や「潮流」発電などが導入され、事業者だけでなく、地域にも恩恵が享受されています。
- ◆ 「災害に強い」という自然エネルギー等の特性を活かして、太陽光パネルと蓄電池、LED照明等を組み合わせた自立・分散型の電力供給システムが、防災拠点や避難所をはじめ、個人住宅や公共的な施設の多くに設置されています。
- ◆ 二酸化炭素を出さない未来のエネルギー「水素」による「水素グリッド[※]」構築への取組みが進展するとともに、次世代エコカーについて、充電インフラ環境の充実による電気自動車等の更なる普及や、水素ステーションの設置等による燃料電池自動車[※]の普及が進み、それぞれの長所を活かした使い分けが定着しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 「次期自然エネルギー立県とくしま推進戦略（仮称）」に基づき、「エネルギーの地産地消」や「災害に強いまちづくり」に向け、県民、事業者、行政等が一体となって、様々な取組みを行い、自然エネルギーの導入を促進します。
- ◎ 太陽光に加え、風力や小水力、潮流、波力などの幅広い分野で、民間事業者の事業化を支援し、地域経済及び地域社会の活性化や雇用の創出を促進します。
- ◎ 農業水利施設等を活用した小水力、太陽光、木質バイオマス、風力などの自然エネルギーを利活用し、施設の維持管理費の軽減や農林水産業の振興を図ります。
- ◎ 県有施設から率先して、太陽光発電設備やLED照明を設置し、エネルギーの自給自足を図るとともに、各種情報の提供や専門家によるアドバイスなどにより、民間企業や個人住宅における取組みを支援します。
- ◎ 次世代エコカーの普及に向け、国補助金等を活用して、充電スタンドや水素ステーション等のインフラ整備を推進します。

Ⅲ 環境先進とくしまの創造

3 潤いある暮らし環境・とくしまづくり①

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

美しく快適な生活環境

- ◆ 事業者による環境配慮への自主的な取組みが進み、事業活動等によって生じる環境負荷の低減が図られ、本県の良好な環境が保全されています。
- ◆ 地域の実情に応じた污水处理施設（下水道・農業集落排水・合併処理浄化槽等）の整備の進展による污水处理人口の増加や、工場・家庭等からの排水処理対策の徹底により、海、川の水質が向上し、清潔・快適な生活環境や、全国トップクラスの安全で豊かな水環境が維持されています。
- ◆ 工場等からのばい煙や自動車からの排出ガス削減への効果的な取組みが進み、健康に暮らせる、さわやかな大気環境が守られています。
- ◆ 地域住民の景観に対する意識が高まり、自然や歴史・文化に根ざした良好な景観が形成され、豊かな自然環境のもと、美しく快適な生活環境を備えた、個性的で魅力的な地域が県下に広がっています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 大気、水、土壌環境を良好な状態に保全するため、機動的・効率的に環境監視を実施し、適切に情報を発信するとともに、事業者の自主管理や地域社会での取組みを推進します。
- ◎ きれいな海、川を守るため、旧吉野川流域下水道などの下水道や、合併処理浄化槽等の整備を推進するとともに、下水道への接続率の向上や浄化槽の適切な維持管理について、地域の実情に合わせた普及啓発活動の実施により、污水处理人口を増やします。
- ◎ 工場等からの化学物質の排出による周辺環境への影響を最小化するため、事業者による化学物質の排出削減と適切な自己管理の取組みを促します。
- ◎ 豊かな自然環境や歴史・文化と調和した良好な地域景観づくりに向け、新たな担い手の育成や官民協働による景観に配慮したまちづくりを進めます。

Ⅲ 環境先進とくしまの創造

3 潤いあるくらし環境・とくしまづくり②

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

進む循環型社会への転換

- ◆ 県民誰もが「環境にやさしい生活」を心がけ、大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会から、環境負荷が低減された循環型社会へとライフスタイルが転換しています。
- ◆ 県民や事業者の環境意識やモラルが醸成され、3 R 意識^{*}が浸透することにより、廃棄物の適正処理や様々なリサイクルシステムの導入が進み、廃棄物ゼロ社会が実現しています。
- ◆ 各種リサイクル制度が改善され、軌道に乗るとともに、太陽電池モジュールのリサイクルや、水銀の適正処理方法が確立され、循環を基調とする健全な社会が実現しています。
- ◆ 環境に配慮した持続的な農林水産業が営まれており、新たな付加価値のある「安全・安心な農林水産物」が県内外の消費者などに提供されるとともに、畜産農家と耕種農家の連携促進により、家畜排せつ物の適正処理や、鶏糞のエネルギー資源としての熱利用など、循環型農業の推進が図られています。
- ◆ 国、地方自治体、民間事業者が一体となった災害廃棄物処理体制（広域処理）が確立されています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 県民や事業者に3 R 意識の浸透を図るとともに、各種リサイクル制度を推進し、廃棄物のリサイクルを進めます。
- ◎ 「ゴミゼロの日」キャンペーンなど環境美化の取組みを、産学民官の連携、協働により推進し、すべての県民に対し「ゴミを出さない、捨てない」という意識の定着を図るとともに、マイバッグ持参等の環境活動を促進します。
- ◎ 廃棄物の適正処理を推進するため、不法投棄等の監視活動を強化するとともに、県民との協働により、きめ細やかな対策を進めます。
- ◎ 有機質資源を循環利用した土づくりによる有機農業といった、環境に配慮した持続可能な農林水産業を推進し、農村地域から出る使用済み農業生産資材や家畜排せつ物などについては、適正な管理・処理はもとより、バイオマス資源としての利活用を推進し、農村地域の環境保全や資源の有効利用を図ります。
- ◎ 南海トラフ巨大地震や集中豪雨等で発生する災害廃棄物の処理に迅速に対応するため、各市町村における「災害廃棄物処理計画」の策定を支援します。

Ⅲ 環境先進とくしまの創造

4 人と自然が調和する・とくしまづくり

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

生物多様性確保と鳥獣適正管理

- ◆ 生物多様性という地域資源を活かしたコンパクトな循環型社会を実現するため、地域が一体となった取組みが県内各地で行われ、豊かな生物多様性の恵みが未来へと引き継がれています。
- ◆ 希少野生生物のうち絶滅が危惧されていた種について、県民の熱意ある保護活動により、生息数が増加に転じています。
- ◆ 本県の特色である豊かな自然が保全され、「鳴門公園」をはじめとした本県の優れた自然景観を楽しむ利用者が増えています。
- ◆ 野生鳥獣の適正管理を担う事業者や若手狩猟者が増え、積極的な捕獲により個体数の減少や生息域の縮小が進み、農林水産物の被害低減による農林水産業の活性化や、自然植生の回復が図られています。



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 県民との協働により「生物多様性とくしま戦略」を推進し、本県の豊かな生物多様性の確保と、その地域資源としての持続可能な利用に努めます。
- ◎ 希少野生生物やその保護活動に関する知識習得の機会を増やすことなどにより、生物多様性に対する県民意識を醸成していきます。
- ◎ 特定外来種^{*}についての基礎調査を継続し、生息状況を明らかにするとともに、防除方法や手続きを普及啓発し、多様な主体が協働して生態系や人の生活に影響を与える外来種を減少させます。
- ◎ 本県の優れた自然景観等を有する自然公園については、その景観に配慮した安全・安心な整備を進めるとともに、案内板の多言語表記の推進など、利用者の受入環境の整備に努めます。
- ◎ 「特定鳥獣管理計画」に基づき、加害鳥獣の積極的な管理を推進するとともに、若年層や女性などを対象に、狩猟技術や鳥獣の管理に必要な講座を開催し、担い手を育成します。
- ◎ 農林水産業の生産活動促進や農山漁村の活性化を図るため、サル、イノシシ、シカ、カワウなどの鳥獣被害防止対策を関係機関等と連携して総合的・広域的に実施します。

Ⅲ 環境先進とくしまの創造

5 豊かな森林を守る・とくしまづくり

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

未来につなぐ豊かな森林^{もり}

- ◆ 間伐による森林の整備や、伐採・再造林による更新が進み、水資源のかん養、山地災害の軽減、二酸化炭素吸収量の増加など、公益的機能の高い健全な森林が増加しています。
- ◆ 多様な森林の管理形態が展開されることにより、森林が放置されることなく適正な管理が継続され、豊かな森林がしっかりと引き継がれています。
- ◆ 森林の重要性が再認識され、森林資源の活用や、環境財としての保全活動が活発に行われるなど、生活の端々に再び森林が取り入れられています。
- ◆ 林道は、林業用道路としての利用に加え、行楽やイベント開催等、多種多様な利用の可能性を秘めた豊かな森林の一部として、人と自然の融合を図り、山郷に新しい“にぎわい”を興しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 「徳島県豊かな森林を守る条例」に則し、県・市町村・林業関係者、さらには、県民や企業・NPOなどと協働した体制のもと、森林保全に向けて、県民総ぐるみの取組みを推進します。
- ◎ 多様で健全な森林を育成するため、間伐、広葉樹林の整備及び複層林^{*}への誘導による適正な森林整備とともに、資源を循環利用するための伐採・再造林を進めるなど、計画的な森づくりを推進します。
- ◎ 私有林の割合が高い本県にあって、個人のみでは管理することが難しくなった森林について、公有林化をはじめとした公的機関が主導する森林管理を推進します。
- ◎ 森林の有する水資源及び県土の保全機能の維持増進を図り、適切に管理・保全していくため、「とくしま県版保安林」と保安林の指定による森林の公的管理や、森林所有者間の境界明確化の取組みを加速します。
- ◎ 山地に起因する災害から、県民共通の財産である豊かな森林を守るため、治山事業や間伐等の森林整備を推進します。
- ◎ 県営水力発電所の水源地域において、公有林化及び間伐等の森林整備を支援します。
- ◎ 豊かな森林を継承するため、カーボン・オフセットの仕組みを導入した企業・県民との協働の森づくりをはじめとする、多様な森林の管理を推進します。
- ◎ 森林を利用し、保全することへの意識の醸成を図るとともに、担い手の確保につなげるため、次代を担う高校生や大学生が森づくりを実践できる場を提供します。
- ◎ 林道でのイベントや行楽のための林道情報など、多様化する利用者のニーズにワンストップで応えるとともに、モータースポーツやトレイルラン^{**}の誘致など、日本初の「林道プラットフォーム^{**}」を構築します。

IV 経済好循環とくしまの創造

1 経済加速・とくしまづくり①

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

地域経済のグローバル化への展開

- ◆ 本県中小企業が、機械金属、木工、加工食品等の各分野において、地域の視点とグローバル感覚を兼ね備えた社員を中心として、地域資源や技術力を生かした魅力ある製品を製造し、高い宣伝・営業力をもって海外ビジネスを展開しており、県内の商社や流通業者などを介して、本県製品が世界中で販売され、ブランド化しています。
- ◆ 県産農林水産物・食品の海外輸出が飛躍的に伸び、アジアから欧米まで幅広く定着し、「ハラール[※]マーケット」において、「徳島生まれのハラール商品」が輝きを放っているなど、「海外輸出」が新たな「成長エンジン」として、本県農林水産業を牽引する役割を果たしています。
- ◆ 「陸・海・空」の交通体系がさらなる進化を遂げ、産業活動による競争力の強化や企業立地が進むとともに、観光客が大幅に増加しています。
- ◆ 徳島小松島港では、韓国や中国・東南アジアなどへコンテナ貨物船が定期運行し、「国際物流の拠点」となっています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- 県内企業がワンストップで海外ビジネスに取り組めるよう、組織体制の強化、グローバル人材[※]の養成、製品開発・改良などの支援に加え、企業と市場を結ぶ地域商社[※]・流通・卸業等のグローバル化を促進する施策の強化とともに、海外市場における本県製品の浸透及び新市場への販路開拓の支援策を充実させます。
- 「とくしま農林水産物等海外輸出戦略」に基づき、輸出国・輸出品目の重点化、輸出品目と輸出量の拡大や「輸出型産地形成」などの施策を強力に推進します。
- 高速交通ネットワークの充実を図るため、「徳島県道路整備利用促進基金」も活用し、四国横断自動車道（徳島JCT～阿南間）、阿南安芸自動車道及びその周辺道路の整備促進に取り組みます。
- 徳島阿波おどり空港に隣接し、四国横断自動車道とのアクセス性が強化された利点を活かして、臨空用地への流通関連企業の早期誘致に取り組みます。
- 本県の産業振興と経済活性化を図るため、国際貿易の拠点である「徳島小松島港コンテナターミナル」の利用促進に向けた効果的な貿易振興策に取り組むとともに、産業構造の変化や時代のニーズへの対応を図るため、「物流機能の充実強化」、「既存ストックの有効活用」、「防災機能の強化」の観点から、徳島小松島港の活性化に取り組みます。

IV 経済好循環とくしまの創造

1 経済加速・とくしまづくり②

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

新たなビジネスへのチャレンジ

- ◆ 創業や起業を考えている方の“夢”を“かたち”にする支援や、創業・起業後のフォローアップにより、徳島で「創業者の強み」を活かしたユニークなビジネスが生み出されています。
- ◆ 中小企業・小規模事業者の“強み”や“経営資源”を活かした新たな取組みを支援することにより、地域経済が持続的に発展しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 活力あふれる徳島経済を実現するために、独自の技術や経験等を活かして、県内で新たに創業する者等を対象にセミナーの開催や事業計画の認定、経営アドバイスを実施するなど創業を支援します。
- ◎ 創業しやすい環境をつくるため、起業家用の貸室を低廉な価格で提供することに加え、事業者間のネットワークづくりを支援します。
- ◎ 創業を目指す者に対する融資制度を充実・強化することにより資金調達の円滑化を図り、創業しやすい環境づくりに取り組みます。
- ◎ 独創的な技術やサービスで、新たな事業活動などの経営革新に取り組む企業を支援するとともに、継続的な経営革新を促進するため、顧客本位に基づく「卓越した業績を生み出す経営の仕組み」を有する経営体制構築を支援し、企業の競争力の強化を図ります。
- ◎ 受注実績の少ない県内中小企業等に対して、受注機会の拡大を図るとともに、県が試験的に購入した製品の成果を実証することにより販路開拓や商品力向上を支援します。

IV 経済好循環とくしまの創造

1 経済加速・とくしまづくり③

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

■もうかる農林水産業

- ◆ 生産と消費の距離が近いという本県の特性を生かし、生鮮食料供給地としての責務を果たすことにより、豊かで充実した食料を提供するとともに、農林水産業は本県の経済を支える基幹産業として発展しています。
- ◆ 高い生産技術力と消費者ニーズを捉えた販売戦略などにより、「とくしまブランド」がより一層充実するとともに、輸出や6次産業化の推進により、県産農林水産物や加工品の需要が国内外に広がっています。
- ◆ 意欲と経営マインドを持つ多様な担い手により魅力ある農林水産業経営が行われ、農山漁村に活気があふれています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- 農産物の増産及び高付加価値化に向け、農林水産総合技術支援センターを核として、大学や民間事業者との連携により、ブランド産地の強化とともに、新たな品種や技術の開発・実用化を推進します。また、県内各地で「ブランド産地化」を促進するため、農地の有効利用や耕作放棄地の解消、農業基盤・生産施設の整備を推進します。
- 県産材の増産に向け、本県地形に適した「主伐生産システム」の構築、高能率団地^{*}の設定、先進林業機械の導入及び効率的な路網の整備を進めるとともに、高校生を対象にした林業教育の実施や新規就業希望者に対する実践技術の早期習得など、新たな担い手の確保・育成を図ります。
- 水産業の活性化に向け、「漁場環境」や「漁業種類」などの海域特性に応じた、エリアごとの振興策を策定し、新たな水産ブランドの創出や段階に応じたスキル習得の支援による人材育成に取り組み、水産業の「創生」を図ります。
- 県産農林水産物や食品の需要拡大に向け、輸出国・輸出品目の重点化、輸出品目と輸出量の拡大や「輸出型産地形成」など、輸出の拡大を推進するとともに、「徳島大学・生物資源産業学部（仮称）」と連携し、6次産業化人材の育成、地場産業との連携による6次産業化ビジネスモデルの創出を支援します。
- 農林水産業の担い手の育成・確保のため、インターンシップの充実等による若者のキャリアアップシステムの構築、女性や経験豊かな高齢者の活躍や経営安定化への支援などに取り組み、新規就業者の確保と就業後の定着を図ります。

IV 経済好循環とくしまの創造

1 経済加速・とくしまづくり④

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

徳島ならではの「経済成長」の実現

- ◆ 小規模事業者が、全国屈指の「ブロードバンド環境」をはじめとした「類い希な地域資源」と「斬新な発想」により、魅力的なビジネスを創出し、本県経済の成長発展を加速させるとともに、地域コミュニティの中で重要な役割を担い、活気あふれる豊かな地域社会を実現しています。
- ◆ 徳島ならではの地域資源を活用した本県ものづくり企業による研究開発、新商品開発が促進されるとともに、生産性や付加価値が大きく向上し、「地域ブランド」が形成され、国内に限らず、海外市場にも販路が拡大することにより、県内の製造品出荷額が大きく増加しています。
- ◆ 「MADE IN TOKUSHIMA」を日常生活の中に取り入れる人が増え、徳島県産品の認知度が高まっており、「阿波藍による藍染め」の普及による“ジャパン・ブルー”の魅力向上に加え、「阿波しじら織」、「阿波和紙」、「大谷焼」をはじめとする伝統工芸品の需要も拡大するなど、地域産業が活性化しています。
- ◆ 多くの県内企業で、「被害軽減」と「早期の事業再開」、さらには「地域の防災・減災力の強化」につながる実効性の高い企業BCP[※]が策定され、企業が安心して安全に操業できる環境が整うことにより、「災害に強い徳島企業ブランド」が確立し、取引先や市場からの評価が高まっています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 「とくしま経済飛躍ファンド[※]」を活用し、徳島ならではの地域資源を活用した研究開発、新製品開発、農工商連携など、中小企業の意欲的な取組みを支援し、創造的な事業活動を促進します。
- ◎ 経営資源を活かした新たな事業活動を図るため、「強い組織づくり」のノウハウを総合的かつ身近に学べる研修プログラムを提供することにより、企業の人財育成を支援するとともに、県内中小企業の経営の安定化を図り、積極的な事業展開が可能となるよう資金繰りの円滑化を図ります。
- ◎ 県内企業への優先発注に努め、受注機会の確保等を推進することにより、地域産業の発展・拡大を支援します。
- ◎ 「ものづくり企業」の販路開拓を図るため、ビジネスマッチングや販路情報の収集・提供などに加え、広域や海外市場における展示商談会への出展支援や情報発信に取り組むとともに、本県が誇る伝統工芸品についても、他業種とのコラボレーションやICTを利用した情報発信により、新たな販路の開拓を支援します。
- ◎ 実効性の高い企業BCP策定や、策定後の見直し改善を推進するため、経営者の意識改革を促す啓発活動をはじめ、より実践的な研修や業種業態に応じた専門家派遣による指導など、積極的な支援を行うとともに、企業が安定的に操業できる環境づくりに取り組みます。

IV 経済好循環とくしまの創造

2 イノベーション立県・とくしまづくり①

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

さらに羽ばたく時代を先取る新たな産業

- ◆ 照明・ディスプレイ分野でLEDの普及が一層拡大する中、医療・農業等様々な分野において新用途開発が進展し、LED集積企業の海外市場への事業展開が進むなど、ものづくり産業のみならず他産業にも大きな波及効果をもたらし、本県の基幹産業として地域経済を牽引しています。
- ◆ 本県の地域資源を活かしたロボットテクノロジーの実用化により、介護・農業・防災分野など様々な場面でロボット技術を効果的に活用し、社会的課題の解決が図られるとともに、ロボット市場への新規参入が進展しています。
- ◆ 徳島に世界的な「糖尿病研究開発クラスター^{*}」が形成され、“徳島発”の健康・医療関連産業が創出されるとともに、世界レベルで社会問題化する糖尿病に対する課題解決モデルが構築されています。
- ◆ アグリベンチャーの創出や、新たな商品の開発・生産システムの導入、農工商連携など地域の多様な事業者によるアグリビジネスの促進により、6次産業化が飛躍的に進展しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- 進化する「LEDバレイ構想^{*}」に基づき、産学官連携により、照明以外の分野におけるLEDの積極的な技術開発を促進し、異業種連携や海外市場への事業展開を推進し、「LEDと言えば徳島！」の知名度向上を図ります。
- 「リチウムイオン電池」や「CFRP(炭素繊維強化プラスチック)」といった本県の強みであるものづくり技術を活かし、産学官連携によるロボット技術開発を進め、本県ものづくり産業の高度化を支援します。
- 高等教育機関や（公財）とくしま産業振興機構などの関係機関と連携して、人材育成、技術力の向上、生産性向上に向けた総合的な支援を行います。
- 産学金官が連携した先進的な糖尿病研究開発と成果の事業化を促進するとともに、健康・医療関連産業の創出・発展に向けたモデル事業を推進します。
- ものづくり企業の有する技術シーズと農業現場のニーズとのマッチングによる農工商連携の促進に向け、情報・マッチング・モデル実証など「総合的にサポートする仕組み」を構築することにより、新たなビジネスの創出を促進します。
- 6次産業化の推進に向け、産学金官が連携し、商品開発、販路開拓の支援及び経営感覚に優れた人材の育成を推進します。
- 科学技術の活用による県民生活の質の向上を目指すため、関係機関との連携により、科学技術人材の育成や戦略的推進分野における取組みを推進するなど、本県の科学技術の振興を図ります。

IV 経済好循環とくしまの創造

2 イノベーション立県・とくしまづくり②

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

新たな「成長モデル」の創出

- ◆ 県内市町村において、「バイオマス活用推進計画（新バイオマスタウン構想）」に基づき、各種バイオマス資源が有効に活用され、環境関連技術を活かした地域づくりが進んでいます。
- ◆ クリエイティブな力で絶えず創造と変革を起こしており、最先端のデジタルコンテンツ・デジタルアートの発信地として広く知られ、業界をリードする多くのクリエイティブ関連企業やクリエイターが集まるなど、県民誰もが「カッコいい」と誇れる県となっています。



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 本県の特性を活かし、未利用木質資源などバイオマスの生産・利用を推進し、環境関連技術を活かした地域づくりに取り組みます。
- ◎ 産学官が連携した人材育成、ものづくり企業とクリエイティブな力との融合や、県外企業の誘致、創業等を推進することにより、国内外からクリエイティブ関連企業やクリエイターの集積を積極的に図るとともに、企業、クリエイターの連携による「LEDアート」創出といった新事業展開や、地域をフィールドとした創作活動など、クリエイターと地域の連携による新たな地域創生に向けた取組みを進めます。

IV 経済好循環とくしまの創造

3 いきいきしごと・とくしまづくり

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

魅力ある雇用の創出と働きやすい職場づくり

- ◆ 4K・8K^{*}の高精細な映像技術を活用した、放送、医療、教育等に関連したサテライトオフィス等の事業所開設や本社機能の移転が進み、世界に先駆けた4K・8Kサービスが実現し、雇用の場が創出され、若者が夢を持てる地域づくりが進んでいます。
- ◆ 大都市圏等からの本社機能の移転により多様な就業の機会が創出されるとともに、国内だけでなく、外資系企業の立地が進み、「グリーンイノベーション^{*}」、「ライフイノベーション^{*}」による新たな雇用の創出により、過疎化の解消が図られ、地域経済が活性化しています。
- ◆ スマートシティ型企业誘致の促進により、南海トラフ巨大地震の影響も心配ない、災害に強く、かつ環境にやさしい企業立地が進んでいます。
- ◆ 男女を問わず就労や技能習得の機会が確保され、すべての労働者が自分にとって仕事と生活の調和がとれた安定的な働き方ができる社会が実現しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- 全国屈指の光ブロードバンド環境やオーダーメイド型の補助制度を武器に、サテライトオフィス等の誘致を積極的に推進することにより、4K・8K関連産業やデジタルコンテンツ産業など情報通信関連産業の集積を図ります。
- 地方創生の動きを加速させるため、本社機能の誘致に取り組むとともに、「環境・エネルギー」、「医療・介護・健康」分野などの成長産業における企業誘致を、国内外を問わず、重点的に推進します。
- スマートシティ^{*}型企业誘致のための環境整備を促進します。
- 職業訓練施設などにおいて、ドイツにおける「マイスター制度」のエッセンスを取り入れた実践的な職業訓練を、企業から講師を招くなど、現場のニーズに応えるべく創意工夫を凝らしながら実施することにより、「技能」と「誇り」を身につけた産業人材の育成を図ります。
- 青少年が自分の進路や職業を選択するにあたり、職業体験やインターンシップを推進するとともに、就業等に関する気軽な相談や刺激を受けることができる若手の企業家や社会人との交流の場を提供することにより、青少年の社会的・職業的自立を促します。
- 若年者やUターン希望者等に対する相談体制充実など、県内で就職しやすい環境を整備します。
- 今後も要介護高齢者等の増加が見込まれることから、高齢者のニーズに的確に対応し、質の高い介護サービス等を提供するため介護職員等の雇用促進を図るとともに、介護離職の防止など、介護者の仕事継続と介護支援の両立に向けた取組みを推進します。
- 障がい者の職業的自立を支援するため、事業主をはじめ県民への意識啓発や、職業能力開発の場を確保します。（再掲）
- 女性が能力を十分に発揮でき、男女ともに働きやすい職場づくりを推進するため、企業等に対する、仕事と家庭の両立支援に関する情報提供や普及活動の充実に取り組むとともに、働く女性の活躍推進に向け、「キャリアアップの支援」、「ワーク・ライフ・バランスの推進」及び「多様な働き方の推進」を3本柱とした施策の充実を図ります。

IV 経済好循環とくしまの創造

4 挑戦するブランド・とくしまづくり

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

世界にひろがる「とくしまブランド」

- ◆ 本県が、「日本の台所」として成長を遂げ、オール徳島の生産販売体制で競争力の強化が進んでいます。また、安全・安心で豊かな「徳島の食・食文化」を通じて、その魅力が広く国内外に発信され、世界に通じる「とくしまブランド」の育成が進んでいます。
- ◆ 新技術の開発・普及や生産基盤の整備により、地球温暖化への対応や作業労力の軽減が図られ、県内各地で「ブランド産地化」が進展しています。県民は「とくしまブランド」の良さを理解し、その魅力を伝えられるようになっており、産直市は地域や県外から訪れる人の交流の拠点として、外国人も含めて賑わっています。
- ◆ 県産農林水産物・食品の海外輸出が飛躍的に伸び、アジアから欧米まで幅広く定着し、「ハラールマーケット」において、「徳島生まれのハラール商品」が輝きを放っているなど、「海外輸出」が新たな「成長エンジン」として、本県農林水産業を牽引する役割を果たしています。（再掲）
- ◆ 「徳島大学・生物資源産業学部（仮称）」との連携により、県下各地で新たな農林水産業ビジネスが展開され、地域が活性化しています。
- ◆ アグリベンチャーの創出や、新たな商品の開発・生産システムの導入、農工商連携など地域の多様な事業者によるアグリビジネスの促進により、6次産業化が飛躍的に進展しています。（再掲）

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 「農林水産業のもうかる成長産業化の実現」を加速するため、「トップブランドへの挑戦」、「東京一極集中への挑戦」、「産地構造改革への挑戦」及び「サポート体制構築への挑戦」に係る施策を展開します。
- ◎ 農産物の増産及び高付加価値化に向け、農林水産総合技術支援センターを核として、大学民間事業者との連携により、ブランド産地の強化とともに、新たな品種や技術の開発・実用化を推進します。また、県内各地で「ブランド産地化」を促進するため、農地の有効利用や耕作放棄地の解消、農業基盤・生産施設の整備を推進します。（再掲）
- ◎ 本県各地の特性や資源を活かした地域ブランドの創出に加え、地産地消協力店制度の拡充や産直市の機能強化による交流の拠点づくりを図ります。
- ◎ 県産農林水産物や食品の需要拡大に向け、輸出国・輸出品目の重点化、輸出品目と輸出量の拡大や「輸出型産地形成」など、輸出の拡大を推進するとともに、「徳島大学・生物資源産業学部（仮称）」と連携し、6次産業化人材の育成、地場産業との連携による6次産業化ビジネスモデルの創生を支援します。（再掲）
- ◎ 農林水産業者と大学や観光・サービス業など民間事業者とのマッチングを進め、生産物の高付加価値化や農工商連携といった6次産業化をはじめとするベンチャー企業の創出・取組みを支援します。

IV 経済好循環とくしまの創造

5 新次元林業・とくしまづくり

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

生産倍増・消費拡大「新次元林業」

- ◆ 先進的な林業機械の導入、効率的な路網の整備及び高い技術力を有する担い手の育成により、林業の生産性が飛躍的に向上し、木材の生産量が倍増しています。
- ◆ 搬出間伐に加え、主伐による県産材の増産が進むとともに、主伐後の再造林も積極的に行われ、森林資源の循環利用と持続的な林業経営が行われています。
- ◆ 中・大規模建築物にも多くの県産材が使われるようになり、地場産業である木材産業が大きく発展しています。
- ◆ 木造建築物をはじめ、内装材や家具など、身のまわりのあらゆるところで県産材製品の利用が進み、製材端材や林地残材も木質バイオマス資源として無駄なく利用されています。
- ◆ 「徳島すぎ」がその品質の高さから市場での評価が高まり、オリンピック関連施設で利用されるとともに、首都圏やアジアをはじめとする海外へ販路が拡大されています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 県産材の増産に向け、本県地形に適した「主伐生産システム」を構築するとともに、高能率団地の設定、先進林業機械の導入及び効率的な路網の整備を進めます。（再掲）
- ◎ 高校生を対象にした林業教育の実施や、新規就業希望者に対する実践技術の早期習得など、新たな担い手の確保・育成を図るとともに、就業後は、初級者から上級者へとステップアップできるよう、体系的な技術力の向上に加え、優れた経営者の育成や起業化への支援を行います。（一部再掲）
- ◎ 主伐後の再造林を推進するため、コンテナ苗[※]などを活用した低コスト造林技術の確立・普及を図るとともに、計画的に実施される再造林に対する支援を行います。
- ◎ 教育・福祉施設などの地域社会に必要な建築物への県産材の利用を進め、需要を増やすことによって、中山間地域における雇用の創出と定住化を進めます。
- ◎ 県産材の消費を拡大させるため、関係団体によるネットワークを構築し、県産材についての情報発信や木育活動を一元的に実施します。
- ◎ 県産材製品の品質向上や商品開発を進め、森林認証材の流通を促進し、オリンピック関連施設への利用や、海外輸出を推進するとともに、構造材だけでなく、床板等の内装材や建具まで、住宅に必要な県産材製品をまるごと輸出するシステムを構築します。

V 世界へはばたくとくしまの創造

1 にぎわいひろがる・とくしまづくり①

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

交流ひろがる快適・交通ネットワーク

- ◆ 東京便、福岡便、札幌便に次ぐ国内主要都市への航空路線が開設されるとともに、国外との定期航空路線の開設やチャーター便の充実がなされており、LCC（格安航空会社）も就航するなど、県民の利便性が向上し、国内外から多くの観光客が徳島を訪れています。
- ◆ 四国横断自動車道（鳴門～阿南間）が開通し、南へと続く阿南安芸自動車道の整備促進により、都市間をはじめ、徳島阿波おどり空港や徳島小松島港など、拠点施設へのアクセスが飛躍的に向上し、経済・産業の発展や観光振興による活力ある地域づくりが進んでいます。
- ◆ 県内の高規格幹線道路、地域高規格道路及びその周辺道路の整備や機能の強化が進み、空港や港湾との連携によって多様な輸送形態が生まれ、物流コスト削減に伴う産業競争力の強化により企業立地が進むとともに、観光客が大幅に増加しています。
- ◆ 公共交通機関が利用者のニーズに応じて運行されるとともに、誰もが住み慣れた地域、住みたい地域で安心して快適に暮らすことができるよう、地域内を移動する手段が整備されています。
- ◆ 放射・環状道路などの整備が進むとともに、鉄道高架事業と徳島市のまちづくりが一体となって進み、交通の円滑化が図られ、都市部での交通渋滞が大幅に緩和されています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- 国内外の新規路線開設に向け、空港機能の強化を図るとともに、チャーター便の実績を重ね、LCC就航も視野に入れながら、効果的なエアポートセールスを推進します。
- 高速交通ネットワークの充実を図るため、「徳島県道路整備利用促進基金」も活用し、四国横断自動車道（徳島JCT～阿南間）、阿南安芸自動車道及びその周辺道路の整備促進に取り組みます。（再掲）
- 公共交通機関利用促進のPRなどを通して、公共交通を地域に必要不可欠な社会基盤として、みんなで支えていくという意識を醸成し、維持・存続に努めます。
- 地域住民、市町村、NPO、交通事業者等の多様な関係者により、地域に根ざした交通体系のあり方を検討し、DMV^{*}などの導入や地域の実情に応じた移動手段の確保に取り組みます。
- 徳島市中心部へ集まる交通量の分散や、交通容量の拡大を図る放射・環状道路などの道路網の整備を進めるとともに、踏切の除去によって道路交通の円滑化を図る鉄道高架事業を、徳島市のまちづくりと一体となって推進することにより、都市部での交通渋滞の解消や交流促進に努めます。

V 世界へはばたくとくしまの創造

1 にぎわいひろがる・とくしまづくり②

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

おもてなしの心豊かな観光立県

- ◆ 県民が、自然、文化、体験、食など多くの宝にあふれた「TOKUSHIMA」に対する誇りと愛着を持ち、その魅力を国内のみならず世界に向け発信することにより、「TOKUSHIMA」の良さが広く認知され、多くの観光客が訪れています。
- ◆ 本県が世界に誇る「阿波おどり」を体感するため、国内外から多くの観光客が来県するとともに、県民も幼い頃から「阿波おどり」に親しむことにより、郷土愛や誇りを感じています。
- ◆ お接待の文化に培われた「おもてなしの心」に惹きつけられ、チャーター便などを活用して、国内外から多くの観光客が繰り返し訪れており、長期間にわたり滞在する観光客も増えています。
- ◆ 旅行会社において、「癒やし」、「食」など旅行者のニーズに応じた様々な旅行商品が提供されており、徳島を舞台にした映画やテレビドラマ等が数多く制作されたことで、県内の観光地を訪ねる大勢の観光客でにぎわっています。
- ◆ 国際大会、学会、スポーツ大会などが徳島で数多く開催され、海外からも多くの参加者が訪れており、宿泊、飲食、物産等への経済効果のみならず、国際化の進展や子どものスポーツ競技力向上に寄与するなど、多方面で地域の活性化が図られています。
- ◆ 「西洋の地中海」と並び称される、「東洋の瀬戸内海」の東の玄関口である徳島小松島港には、毎年多くの国内外クルーズ客船が寄港し、港のにぎわい創出や地域経済の活性化が図られています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 郷土の歴史や文化、自然などの観光資源に親しみ、ふれあうことを通じて、郷土に対する理解や関心を深め、「おもてなしの心」を持って観光客を受け入れることができるよう、徳島の将来の観光を担う人材育成を推進するとともに、観光資源の磨き上げ・掘り起こしなどを通じた観光地としての魅力向上や、SNS等の活用による広く国内外に向けた魅力発信に取り組みます。
- ◎ 国内外に「阿波おどり」の魅力を積極的にPRするとともに、県民が幼い頃から「阿波おどり」にふれる機会を創出して、ふるさと意識の醸成を図ります。
- ◎ 海外からのチャーター便誘致に加え、近隣府県等と連携し、充実を図った「おどる宝島！パスポート^{*}」の活用や、四国遍路等の文化や食といった本県ならではの観光資源やコンテンツを効果的に組み合わせるなど、国内外からの観光誘客を図ります。
- ◎ 旅行者や旅行会社のニーズに対応した旅のプランを作成し、効果的に旅行会社に売り込むとともに、徳島を舞台にした映画、テレビドラマ等のロケの誘致・支援に積極的に取り組みます。
- ◎ 拳県一致体制^{*}でのコンベンション^{*}情報の共有化・効果的な開催支援により、MICE^{*}の国内外からの誘致促進に加え、ニューツーリズムの推進を図るとともに、本県を訪れる外国人旅行者の利便性向上を図るため、多言語表記の推進やハラルへの対応など受入環境の充実を推進します。
- ◎ 徳島小松島港への国内外クルーズ客船の寄港を継続・拡大させるため、広域連携等による積極的な誘致活動や、受入態勢の充実強化に取り組みます。

V 世界へはばたくとくしまの創造

1 にぎわいひろがる・とくしまづくり③

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

本物を実感・体感！

- ◆ 徳島の豊かな自然や、新鮮で安全・安心な食材、「阿波おどり」や「阿波人形浄瑠璃」、「歩き遍路」といった伝統文化、農山漁村でのありのままの生活を活用した体験プログラムなど、質の高い内容が体験型観光の先進地として国内外から認知され、徳島を訪れる修学旅行生や家族客などでにぎわっています。
- ◆ 徳島を代表する選りすぐりの県産品である「とくしま特選ブランド」が国内のみならず、世界から「買いたい県産品」として認知・評価されています。
- ◆ 県南部圏域では、海・山・川が揃う「豊かな自然」や、農村舞台での阿波人形浄瑠璃をはじめとする「伝統文化」、魅力ある「食」などを活かして、体験型観光や新たな魅力ある観光ツアーを実施し、国内外から多くの人々が訪れ、地域が活性化しています。
- ◆ 県西部圏域では、美しい日本の原風景や独自の伝統文化など、魅力的な観光資源を体験できる環境が整備されており、国内外から選好される国際競争力の高い魅力ある観光地域として、外国人を含む多くの観光客でにぎわっています。
- ◆ 「鳴門の渦潮」に関する調査・研究が進んでおり、その自然的・文化的価値に対する理解が進み、国内外から多くの人々が訪れるとともに、世界遺産登録に向けた取組みが着々と進んでいます。



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 農林水産業体験や郷土料理など、地域の日常生活と結びつく体験プログラムにより、地元の人々との交流が生まれる「体験型観光」をより一層推進するため、官民が連携した地域の主体的な取組みを支援するとともに、受入態勢の充実や、国内外の教育関係者に対する積極的なPR活動により、教育旅行の誘致拡大を図ります。
- ◎ 国内外において、アンテナショップ^{*}を戦略的に展開し、県産品の展示・PR・販売や、消費者ニーズを把握して魅力ある県産品の開発・普及に努めるとともに、安全・安心で徳島ならではの魅力を持った、徳島を代表する優れた県産品を「とくしま特選ブランド」として登録拡大し、品質を追求していきます。
- ◎ 県南部圏域の団体や行政が参画した「推進体制」を構築し、「観光」、「食」、「アウトドアイベント」、「伝統文化」等様々な分野で、地域が一体となって企画・プロモーションを行い、さらなる交流人口の拡大を目指します。
- ◎ 国内外から選好される国際競争力の高い魅力ある観光地域を目指すため、県西部圏域が一体となって、剣山、祖谷のかずら橋、うだつの町並みなどの観光地や、伝統芸能、高地集落の暮らしなど、地域資源を活かした「住んでよし、訪れてよし」の観光地域づくりに取り組むことにより、滞在交流型観光を促進します。
- ◎ 徳島・兵庫の産学民官が一体となって、世界遺産登録に向けて、「鳴門の渦潮」の自然的・文化的価値について学術的な検討を加えるとともに、その魅力を積極的に国内外に発信していきます。

V 世界へはばたくとくしまの創造

1 にぎわいひろがる・とくしまづくり④

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

世界に広がる「にぎわいの輪」

- ◆ アニメイメント「マチ★アソビ」が、国内のみならず、世界に通用する「地域ならではの」のアニメイメントとして、全国はもとより海外からの参加者でにぎわい、地域経済活性化の牽引役としての役割を果たしています。
- ◆ 「とくしまマラソン」が全国屈指の大会として国内外から注目を集め、海外から多くのランナーが参加するとともに、地域の特色を活かした「おもてなし」や「応援」が沿道で繰り広げられるなど、国際大会として盛り上がりを見せています。
- ◆ ウォーターフロントに立地する“アスティとくしま”をはじめ、豊かな自然環境や立地特性等に恵まれた観光交流施設や、“徳島ならではの体験”ができる様々な施設では、国内外から多くの人が集って徳島の魅力を満喫しており、にぎわいが周辺地域や県内全域へと広がっています。



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 「マチ★アソビ」において、日本語がわからない外国人でも楽しめるイベントの充実や拡大を図るため、国内はもとより、全世界へ向け、プロモーションビデオやプロモーション活動、海外イベントと連携した情報発信を強化します。
- ◎ 「とくしまマラソン」を国際大会として実施し、海外からの参加者が楽しく安全に走れるよう、サイン類の多言語化などの受入態勢の充実を図るとともに、全世界へ向け、プロモーション活動やホームページ等により、「とくしまマラソン」の魅力を発信します。
- ◎ 魅力ある観光交流施設として、来場者のニーズに基づいた施設整備を行うとともに、観光交流施設間はもとより、体験型観光の拠点となりうる既存施設や、施設周辺地域の商店街といった観光資源との連携を図るなど、創意工夫を凝らして効果的に施設の魅力を発信し、来場者数の増加を目指します。

V 世界へはばたくとくしまの創造

2 世界とつながる・とくしまづくり

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

ひろがる国際交流・多文化共生

- ◆ 本県と友好交流を提携する多くの国や地域との間で、行政のみならず民間においても、観光や経済、学術、文化・スポーツなど幅広い分野で交流が行われ、世界中で「徳島」に親しみを持つ人々が増えています。
- ◆ 東京便、福岡便、札幌便に次ぐ国内主要都市への航空路線が開設されるとともに、国外との定期航空路線の開設やチャーター便の充実がなされており、LCC（格安航空会社）も就航するなど、県民の利便性が向上し、国内外から多くの観光客が徳島を訪れています。（再掲）
- ◆ 「西洋の地中海」と並び称される、「東洋の瀬戸内海」の東の玄関口である徳島小松島港には、毎年多くの国内外クルーズ客船が寄港し、港のにぎわい創出や地域経済の活性化が図られています。（再掲）
- ◆ 「多文化共生のまちづくり」が実現し、言語や文化の違いを踏まえた外国人への温かい「お接待の心」による対応などにより、外国人とのコミュニケーション能力が優れた県として、国内外から評価されています。
- ◆ 生活情報や観光情報をはじめとする様々な情報が多言語で提供されるとともに、語学力を備えた人材による支援が充実し、多くの外国人が仕事や留学目的で徳島に訪問・在住しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 友好交流提携を行っているブラジル・サンパウロ州、ドイツ・ニーダーザクセン州、中国・湖南省をはじめ、多くの国、地域と相互に利益を感じられる県レベルの友好交流の推進とともに、経済や観光、医療といった観点から、東アジアのみならず、東南アジアとの関係を重視し、さらなる交流拡大を進め、インバウンド[※]の飛躍的増加を目指します。
- ◎ 国内外の新規路線開設に向け、空港機能の強化を図るとともに、チャーター便の実績を重ね、LCC就航も視野に入れながら、効果的なエアポートセールスを推進します。（再掲）
- ◎ 徳島小松島港への国内外クルーズ客船の寄港を継続・拡大させるため、広域連携等による積極的な誘致活動や、受入態勢の充実強化に取り組みます。（再掲）
- ◎ グローバル化の進展等、社会環境の変化に対応した国際化施策により、外国人が住みやすいまちづくり等を推進します。
- ◎ 徳島県国際交流協会や民間団体と連携し、小中学校や地域の国際交流事業に、在住外国人や外国での生活経験がある方々を派遣して、県民に幅広い外国との交流の機会を提供することで、子どもから大人まで、県民の国際感覚を醸成します。
- ◎ 県内の国際的ワンストップ情報受発信拠点である「とくしま国際戦略センター」を核として、多言語による案内サービスや生活支援のための相談窓口の充実、外国人支援にあたる各種ボランティアの育成を図るとともに、在住外国人の日本語能力の向上に資する施策を進めます。
- ◎ 公共施設や観光案内に関する情報の多言語化や、主要観光地等における案内標識の整備など、外国人が住みやすく、訪問しやすい徳島づくりを進めます。

V 世界へはばたくとくしまの創造

3 文化創造・とくしまづくり

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

人と地域がともに輝く「あわ文化」

- ◆ 「あわ文化」創造の努力がたゆみなく続けられ、阿波藍、阿波人形浄瑠璃、阿波おどりなどの伝統文化や音楽をはじめとする芸術文化が息づく魅力ある地域づくりの実現とともに、すべての県民が、徳島ならではの文化資源の豊かさを再認識し、誇りを持って暮らせる社会を創造しています。
- ◆ 国内外の人々との「あわ文化」を通じた交流により、交流人口が増加しており、東京への一極集中を解消する課題解決先進県となっています。
- ◆ 本県の貴重な史跡・文化財が誇りある地域の資産として活用され、県内各地で特色ある「歴史・文化遺産を活かした地域づくり」が進んでいます。
- ◆ 文化の森総合公園各施設、あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）、文学書道館、阿波十郎兵衛屋敷が、多様化・増加する県内外の生涯学習ニーズに応え、全国に誇れる生涯学習・文化・地域教育の拠点となっています。
- ◆ 世界遺産に相応しい文化資産として、四国遍路の文化財的価値が国内外に認知され、世界中から多くの人々が訪れるとともに、地域に根ざしたお接待や遍路道の保存活動が行われています。



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 阿波藍、阿波人形浄瑠璃、阿波おどり、ベートーヴェンの「第九」を中心に、芸術文化が息づくまちづくりを推進し、交流人口を増加させるとともに、東京への一極集中を解消させる先進モデルを創出します。
- ◎ 徳島に共感を持った音楽家で構成する「とくしま記念オーケストラ（とくしま国民文化祭記念管弦楽団）」によるクラシック音楽の上演をはじめ、一流芸術の実演などにより、優れた芸術文化が息づくまちづくりを推進します。
- ◎ 東京オリンピック・パラリンピックを契機として展開される文化プログラムに呼応し、国内外の人々を魅了する文化イベントを開催します。
- ◎ 地域の資産である史跡・文化財の活用による地域振興を図るとともに、文化に関する「人材バンク」、文化財ボランティアの登録を推進するほか、県内各地の埋蔵文化財をはじめとする様々な文化財を総合的に学習することができる体系・施設の構築等により、あわ文化教育の創造に取り組みます。
- ◎ 本県の文化活動の拠点となる、あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）、文学書道館、阿波十郎兵衛屋敷について、関係団体と連携し、官民協力して、ソフト面の充実を図るなど魅力ある運営を行います。
- ◎ 文化の森総合公園の各施設において、文化や芸術に直接触れ合う機会の充実を図ります。鳥居龍蔵記念博物館においては、関連する研究機関等と連携して資料調査や共同研究を行うためのネットワークを形成します。
- ◎ 「四国八十八箇所霊場と遍路道」の構成資産の文化財的価値付けを加速させ、その魅力を発信するとともに、産学民官が一体となって四国遍路文化の保存と継承を図ります。

V 世界へはばたくとくしまの創造

4 スポーツはばたく・とくしまづくり

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

みんなが誇れるスポーツ王国

- ◆ 県民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しみ、スポーツを通じて県民の元気を創造する、全国に誇りうる「スポーツ王国とくしま」が実現しています。
- ◆ ジュニア層の育成・強化が次世代へと引き継がれ、競技スポーツの基盤となる高等学校の競技力が飛躍的に向上し、本県出身の選手が国際大会や全国大会で活躍しています。
- ◆ ヴォルティスがJ1で活躍するとともに、インディゴソックスが毎年NPB^{*}に選手を輩出する常勝球団として注目されるなど、両チームが徳島の誇りとなり、プロを目指す子どもたちや地元チームを応援する人たちで、スタジアム内外がにぎわいにあふれています。



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 行政、教育関係機関、スポーツ関係団体、企業等との連携・協働により、「スポーツ王国とくしま」の実現に向け、「徳島県スポーツ推進計画」を着実に推進します。
- ◎ 生涯スポーツ社会の実現や競技スポーツの競技力向上を図るための基盤整備の推進に加え、総合型地域スポーツクラブの創設・育成の支援や、2019年から3年連続で開催される国際スポーツ大会（ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピック、関西ワールドマスターズゲームズ^{**}）のキャンプ地・開催会場の誘致の推進により、県内のスポーツ機運を高め、誰もが楽しめる生涯スポーツの普及を図ります。
- ◎ ジュニアからの一貫指導体制づくりを進め、関係機関との事業連携や指導者等の人材活用及び県内企業、大学等との連携強化により、競技力の向上を図ります。
- ◎ 本県唯一のスポーツ科を有する鳴門渦潮高校において、充実したスポーツ・トレーニング環境を整えるとともに、スポーツ科学を研究している大学と連携し、科学的に分析する能力や知識の育成を図るなど、本県の競技力向上とスポーツ振興を図ります。
- ◎ プロスポーツの楽しさ・素晴らしさを、より多くの県民に知ってもらい、身近に感じてもらうことにより、スポーツ文化の振興やにぎわいの創出を図ります。

V 世界へはばたくとくしまの創造

5 創造的なまちが輝く・とくしまづくり①

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

快適な公共交通と都市生活

- ◆ 少子高齢化が進む本県において、コンパクトで快適に暮らせる効率的な都市形成とともに、南海トラフ巨大地震をはじめとする大規模自然災害を迎え撃つ「安全・安心なまちづくり」が推進されています。
- ◆ 高齢者、障がい者をはじめ、国籍等を問わず、誰もが自由に社会参加できる「ユニバーサルなまちづくり」が進み、安全・安心で快適な施設整備が促進されています。（再掲）
- ◆ 生活情報や観光情報をはじめとする様々な情報が多言語で提供されるとともに、語学力を備えた人材による支援が充実し、多くの外国人が仕事や留学目的で徳島に訪問・在住しています。（再掲）

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 都市計画基礎調査を実施し、関係市町・地域住民との協働により、地域の実情に応じた安全で快適に暮らせる効率的な都市形成の推進が図られるよう、都市計画区域マスタープランを見直します。
- ◎ 全ての人々が安全に安心して暮らせるよう、歩道等の整備や、事故危険箇所における交通安全対策を推進するとともに、誰もが利用しやすい公共交通機関を実現するため、利便性、快適性の向上を図ります。（再掲）
- ◎ 公共施設や観光案内に関する情報の多言語化や、主要観光地等における案内標識の整備など、外国人が住みやすく、訪問しやすい徳島づくりを進めます。（再掲）

V 世界へはばたくとくしまの創造

5 創造的なまちが輝く・とくしまづくり②

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

人口減少社会に挑戦する個性豊かな地域社会

- ◆ 移住者等への受入態勢が整備され、豊かな自然環境の中で、U I J ターン者が地域の一員として活躍し、地域が活性化しています。
- ◆ 農山漁村地域の集落では、地域住民が文化的・経済的に豊かな生活を送り、農山漁村の有する多面的機能が発揮され、棚田等の美しい原風景、伝統・文化とともに継承されるとともに、都市住民、外国人があこがれ、活発に訪れる、活気と魅力あふれる農山漁村社会が形成されています。



〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 移住者や移住希望者への相談にきめ細かな対応ができるよう、相談体制の整備をはじめ、ホームページ・メールマガジンによる情報発信、空き家情報の提供や移住交流フェアの実施、移住・交流体験の充実、サテライトオフィス[※]の取組の推進など、多様な移住・交流施策を市町村や民間団体と連携して推進します。
- ◎ 農村地域における将来ビジョンを明確にし、その実現に向けて地域住民、行政が各々の役割に応じて行動する仕組みを構築することにより、地域のすてきな未来を創造する取組みを推進します。また、農山漁村での生活や農林漁業体験ができる「とくしま農林漁家民宿」や体験型交流施設などによる、都市住民や外国人との交流を積極的に推進します。
- ◎ 豊かで住みやすい農山漁村の創造に向け、生産基盤と生活環境基盤の一体的な整備や日本型直接支払[※]を推進するとともに、地域住民活動の活性化を促進するリーダーの育成を支援し、農業・農村の多面的機能の発揮や美しい景観を維持・保全します。

V 世界へはばたくとくしまの創造

5 創造的なまちが輝く・とくしまづくり③

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

ICT利活用先進県・とくしまの実現

- ◆ 少子高齢化や人口減少、産業構造の変化、地球規模での環境問題、風水害や地震災害など本県が抱える様々な課題の解決に向けて、ICTを課題解決ツールとして積極的に利活用し、安全・安心で活力あふれる地域の創造が進んでいます。
- ◆ 「全県CATV網構想」として整備が開始された高速ブロードバンド網が、県内全域において光ファイバー化され、4K・8Kなど、大容量ネットワークを必要とするサービスの充実や、家電や車などが、IoT（モノのインターネット）として接続されるなど、より便利で快適な生活を営んでいます。
- ◆ マイナンバー制度^{*}の導入により、行政事務の効率化、プッシュ型行政サービス^{*}の充実が図られるとともに、災害時の被災者支援にも利活用されており、県民にとって利便性が高い公平・公正で、安全・安心な社会となっています。
- ◆ テレワークにより、場所と時間にとらわれない多様な働き方が浸透し、「ICT利活用先進県・とくしま」を拠点として、多様な人材がワーク・ライフ・バランスを実現しながら、いきいきと働ける社会となっています。
- ◆ 県内の主な施設や観光地ではWi-Fi^{*}が普通に使い、訪れた外国人等の観光客が簡単に情報収集や徳島の魅力発信をしており、国内外の人々とICTを利活用した交流が一層盛んになり、徳島県全体が、コミュニケーションあふれる地域となっています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ ICTを課題解決ツールとして効果的・積極的に利活用するための指針である「ICTとくしま創造戦略」の着実な推進を図り、基本理念や目指すべき社会の実現を目指します。
- ◎ クリエイターやエンジニア等、クリエイティブな仕事に従事する人材の育成や、交流を図ることにより、新産業や新サービスを創出し、人と地域が元気な社会の実現を推進します。
- ◎ 行政情報の集約を行い、行政サービスの効率化を図るため、クラウドコンピューティング技術を活用し、マイナンバー制度に対応した自治体クラウドを推進します。
- ◎ 企業における在宅勤務や、Wi-Fiを活用したモバイルワーク^{*}の導入などを推進し、生活全般の質の向上を目指すとともに、誰もがテレワークにより仕事ができるICT環境の実現を目指します。

V 世界へはばたくとくしまの創造

5 創造的なまちが輝く・とくしまづくり④

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

地域が主役の新しい社会

- ◆ 「関西」が持つ高いポテンシャルや、各地域が有する多様な個性・強みを世界に発信するとともに、「東京一極集中」を打破し、「関西」と「関東」の双方に政治、行政、経済の核が存在する「国土の双眼構造」への転換が進むなど「関西」地域全体が発展しています。また、「四国と近畿の結節点」である徳島は、ますます人や物の流れが活発になり、その影響は四国全体に及んでいます。さらに、都道府県や関西広域連合への国の事務・権限の移譲により、国と地方の役割分担が明確に進んでいます。
- ◆ 過疎地域においては、必要な生活基盤の整備はもとより、地域の実情に応じた、身近な生活交通や医療の確保、集落の維持活性化に向けた、生活に密着したソフト対策が重点的に実施され、住民が安心し、豊かに暮らしていける地域社会づくりが展開されています。
- ◆ 「課題解決先進県・徳島」からの実効性のある「処方箋」としての政策提言が、国の新たな制度や施策に反映され、地方がリードする地域の実情に即した「日本創生」が進んでいます。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 「四国」と「近畿」の結節点である徳島の強みを最大限に活かし、関西における医療、防災、観光・文化、産業、環境分野など広域行政の取組みを徳島から先導します。
- ◎ 地方分権改革の突破口を開き、「国と地方の役割分担の見直し」、「国から地方への事務・権限移譲」など「平成の新しい国づくり」をリードするために、国への提言や要請を「全国知事会」や「四国知事会」、「関西広域連合」等から積極的に展開します。
- ◎ 「県過疎地域自立促進計画」に基づき、市町村との連携を図りながら、人口減少問題をはじめとする様々な課題を解決するため、地域の実情に応じた過疎対策を着実に推進します。
- ◎ 地方の創意工夫を盛り込んだ徳島ならではの「処方箋」が、「地方創生」から「日本創生」へとつながるよう、国に対する積極的な政策提言を実施します。

V 世界へはばたくとくしまの創造

5 創造的なまちが輝く・とくしまづくり⑤

〈目指すべき10年程度先（2025年頃）の姿〉

◆ 不断の行財政改革と県民主役の県政

- ◆ 不断の行財政改革により、県を取り巻く厳しい財政状況を乗り越え、「課題解決先進県」として培ってきた政策の創造力や実行力を新たな行政課題の解決に発揮し、「県民目線に立った県政運営」を推進するとともに、日本をリードしています。
- ◆ 財政構造の弾力性の確保や公債費水準の適正化など、財政構造改革の成果が現れてきており、財政の健全性を維持しながら、喫緊の課題にも着実に対応しています。
- ◆ 県政に関する県民の知る権利が尊重され、情報公開の総合的な推進により、県民参加による公正で開かれた県政が実現しています。また、ICTを駆使した事務手続きの簡素化により、個々の県民ニーズに対応した行政サービスを迅速に行えるようになっています。
- ◆ 県民をはじめ、国内外の方との双方向コミュニケーションが活発に行われ、即時性に富んだ積極的な情報発信により、本県の知名度の向上や交流の活性化が図られています。また、分野・領域を超えたオープンデータの融合・活用等により、「新たな価値」が創造され、地域の課題解決や経済の活性化につながるとともに、行政の透明性・信頼性が向上しています。
- ◆ 東京オリンピック・パラリンピックや関西ワールドマスタースゲームズの開催を契機に、国際的な視点を備えた職員が、徳島県の魅力や強みを発信するとともに「創造的実行力」を発揮し、知恵と工夫を凝らした施策を積極的に展開しています。

〈実現のための主な施策の方向性〉

- ◎ 新たな政策課題の解決に向けて、「戦略的な行財政改革」に取り組み、「新時代を切り拓く処方箋」を創るため、縦割りの弊害を生まない「連携強化型の組織体制」への進化をはじめ、これまでの「改革の歩み」を止めることなく、その着実な推進を図ります。
- ◎ 公債費について、本県の財政規模に見合った妥当な水準とするため、今後も県債の発行額を抑制し、実質的な地方交付税である臨時財政対策債を除いた県債残高、県民一人当たりの県債残高を減少させます。
- ◎ 時代に即した広報媒体を効果的に活用して、積極的かつきめ細やかな情報発信を行うとともに、各種媒体や知事との対話等を通じていただいた提言を積極的に県政に反映していきます。
- ◎ 市町村との連携や県民・企業等データ利用者のニーズへの対応など、「オープンデータポータルサイト」を基盤としたデータ利活用環境の整備・充実を図ります。
- ◎ 職員一人ひとりの、徳島の強みや魅力を国内外への発信力強化のため、「地域の資産や文化を知り」、「語学力を強化する」研修の充実を図ります。また、南海トラフ巨大地震を迎え撃つための「防災人財」や、「世界を見据えた人財」を戦略的に養成するため、国や海外の機関等への派遣研修を行い、未来の徳島を担う「人財」育成を強力に推進します。

